



株式会社FTS

〒471-8510 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目26番地
TEL 0565-29-2211

<https://www.fts-com.co.jp/>



Fuel Total Systems

FTS REPORT 2025



このサステナビリティレポートの印刷工程で使用した電力量(200kWh)はグリーン電力でまかなわれています。

株式会社 **FTS**

変わらぬ意思で、変わりゆく未来へ。

Fuel Total Systems
FTS REPORT
2025

私たちFTSは、人間性尊重を基軸にグローバル企業として
社員一人ひとりが新たな価値の創造に努め、
お客様に喜ばれる商品・サービスを提供する
エネルギー総合システムサプライヤーをめざします。
『変革』と『挑戦』を合言葉に、未来に向かって
力強く前進する私たちFTSにご期待頂くと共に、
変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。
持続可能な社会を次世代に引き継ぐために、
環境と人間にやさしい技術や商品を通して、未来の「ものづくり」を実現します。

トップメッセージ	03
経営理念	07
100年企業をめざしたFTSの歩み	09
FTSの事業の深化・進化と価値創造の歴史	11
FTSの強みと主要製品	13
将来Vision（成長・価値創造戦略）	15
将来Vision（成長に向けた戦略と戦術）	17
100年企業に向けた会社の変革(戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	
戦略Ⅰ 環境認識・分析と コアビジネスの限量経営	19
戦略Ⅱ・Ⅲ コアビジネス(燃料系)の 高付加価値化と新規ビジネスの創出	21
盤石な会社経営基盤の確立	
安全・防火・品質：相互啓発の風土づくり	25
デジタル化(DX)推進	27
SDGs推進	29
環境への取り組み	31
社会の一員としての取り組み	35
コーポレートガバナンス強化の取り組み	39
FTSの概要	
FTS非財務データ 2024年度実績	43
会社概要・国内拠点紹介	45
グループ会社紹介	47

「100年企業」をめざした 戦略の実行フェーズに移行しました。

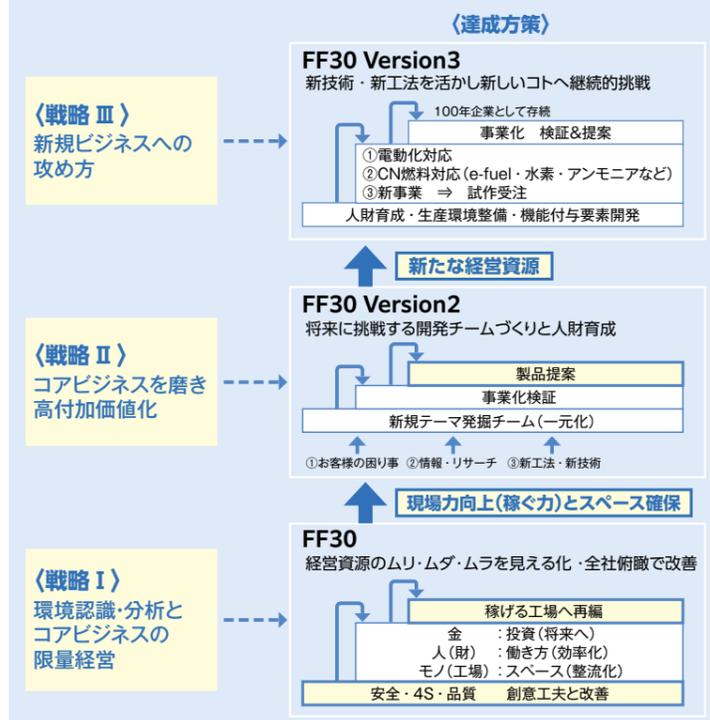
戦略の具現化に向けた実行方策「FF30」の発動

2022年6月に私が社長に就任してから3年が経ちました。現在の社会環境を見渡すと、賃金や雇用情勢の改善が景気のプラス要因として見込まれる一方で、物価上昇圧力、関税引き上げ、米中の貿易摩擦、ウクライナ紛争などが、世界経済の悪化リスクとして存在しています。

当社の足元では、自動車業界のEVシフトや、年6%レベルの大幅賃金上昇による固定費増など難しい舵取りが求められる経営環境が続いています。しかし、健全な危機感のもと課題を整理し、2023年度に「100年企業」に向けた3つの戦略を立案しました。2024年度には、ステークホルダーの皆様に対して、当社初の「FTS Report」を株主総会にてご説明し、戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容とその思いをお伝えしました。「戦略」は、実行しなければ意味がありません。

そこで戦略を具体的に実行できるレベルまで落とし込んだ方策として、「FF30」(FTS Future 2030の略)を掲げ、実行の一步をスタートしました。その推進にあたっては、社員をはじめ皆様に対して、戦略理解と浸透を丁寧なことを大切にしています。会社は分かりやすく、繰り返し説明し、理解を促し、社員一人ひとりは、自らのやるべき事を納得し、宣言する。この活動を労使一体となって取り組む事で戦略遂行のための土台づくりができたと思います。本誌を通して、ステークホルダーの皆様とFTSの取り組みに対する相互理解が深められましたら幸いです。

100年企業に向けた戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと達成方策「FF30」



戦略Ⅰ「限量経営」により、 強固な経営基盤を確立

戦略Ⅰ「限量経営」とは、限られた生産量をできるだけ安くつくることです。そのために売れる量に合わせてムダをなくし、柔軟に変動できる生産体制をめざしていく経営のことです。FTSの主力製品である燃料タンクの需要は、タンクを必要としない電気自動車(BEV)の普及に伴い減少することは明らかです。この厳しい状況の中で生き残っていくためには、先に述べたように、生産量が減少しても収益を維持できる「限量経営」が必要です。

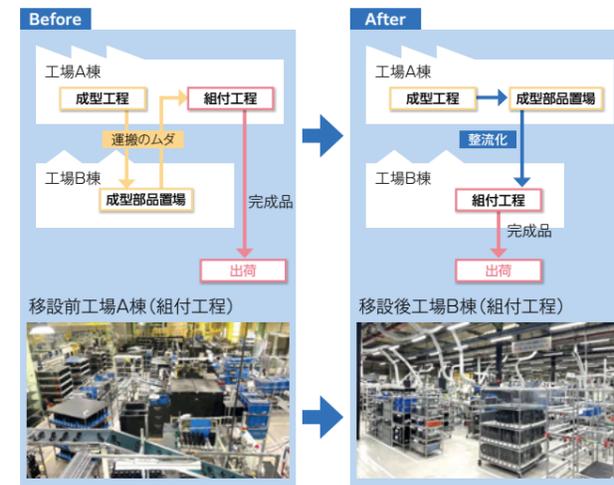
昨年より、我々は、「安全・防火と品質は4Sから生まれる」という信念の下、「4S(整理・整頓・清掃・清潔)」の徹底からスタートしました。なぜならば、排除すべき「ムリ・ムダ・ムラ」は、4Sが徹底され、正常と異常がわかる環境になることで初めて、「見える化」する事ができるからです。

次に、岩手工場、広田工場、福岡工場、大分工場で作業の「整流化」に取り組みました。「整流化」とは、工場内、工程間、工程内のヒト・モノの動線が整然と効率的にムダなく流れることです。4Sから整流化までの活動に取り組んだことで、職場は見違えるようにキレイになり、工場の景色が変わってきました。この結果、ムリ・ムダ・ムラを無くすという社員の改善意識が高まり、自発的な改善活動が進んだため、安全・品質が向上するだけでなく、スペースも捻出されました。これらにより、着実に稼ぐ力(現場力)が高まり、FTSの文化として浸透してきたことを実感しています。

現場の景色の変化



整流化事例(広田)



戦略Ⅰで生み出した現場力と スペースで戦略Ⅱを実行

戦略Ⅱに掲げる、高付加価値製品の提案は、戦略Ⅰの限量経営の着実な実行により生み出された現場力とスペース、既存設備を賢く最大活用することによるビジネス再編、工場再編を通じて可能となります。

その一例として、FTS九州では、お客様の困り事の解決を大前提とした下記を進めています。

大分工場

樹脂製の燃料タンクに加えて、お客様への物流ロスの解決を目指した、新構造となる「電動樹脂リッド」の現調化生産

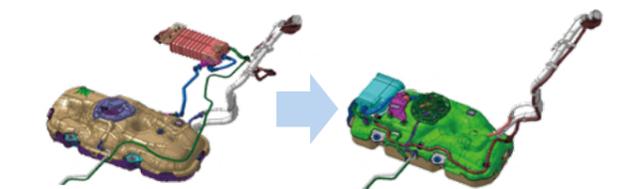
電動樹脂リッド



福岡工場

お客様の工場で個々に組み付けしている数点の部品を弊社でまとめて組み付けモジュール化することで、一つの部品として納入する新構造・新工法となる「キャニスター体タンク」の生産

キャニスター体タンク



福岡事例 キャニスター体モジュール化

*お客様の困り事
組み付け部品点数削減
(10部品→1部品)

技術的な課題やモノづくりの課題はありますが、システムサプライヤーの強みを活かして乗り越えていきます。

これにより、お客様の困り事である工場スペースや作業工数低減によるクルマの競争力向上に貢献すると共に、弊社の収益力も向上させる三方良しとなる提案をすることができました。2025年は、「FF30」の実行の年として、他工場においても施策を進めていきます。

取締役社長

磯部利行

Top Message

戦略Ⅰ・Ⅱで生み出された新たな経営資源により、マルチパスウェイに対応する「エネルギー密閉容器の専門メーカー」への進化

現在、自動車業界は大きな変革期にあります。仮に自動車産業におけるカーボンニュートラルの正解が「BEV」だけであれば燃料タンクは不要となります。

しかし、世間で、『敵はCO₂』だと言われているように、地球環境が求めているのは温暖化の原因であるCO₂を減らすことであり、BEV化だけが答えではありません。現在、水素やアンモニアなど、燃やしてもCO₂を出さないクリーンなカーボンニュートラル燃料の研究が世界各地で進められています。

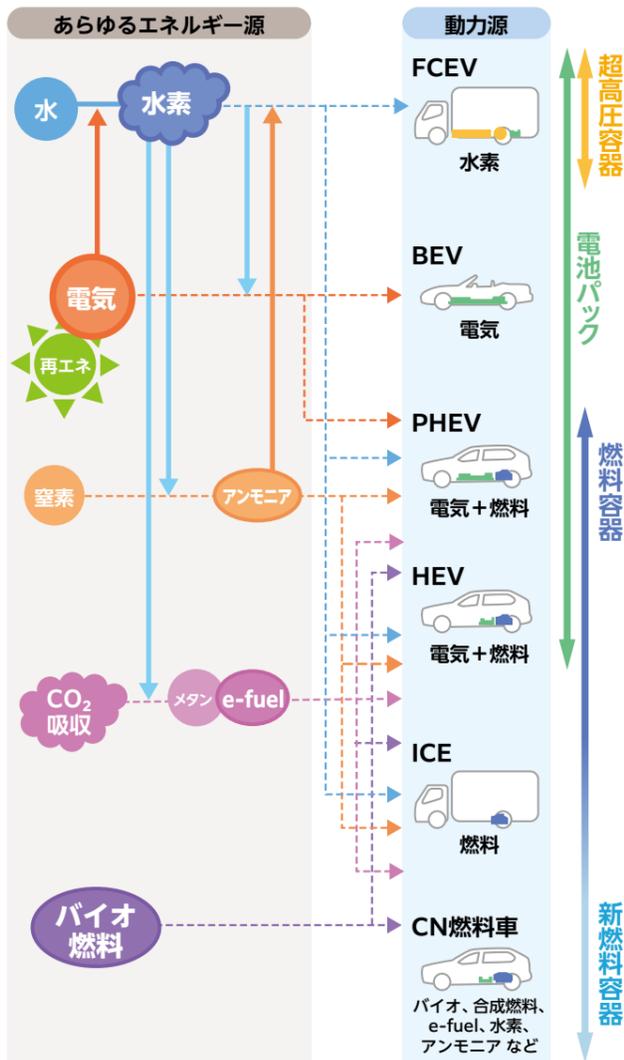
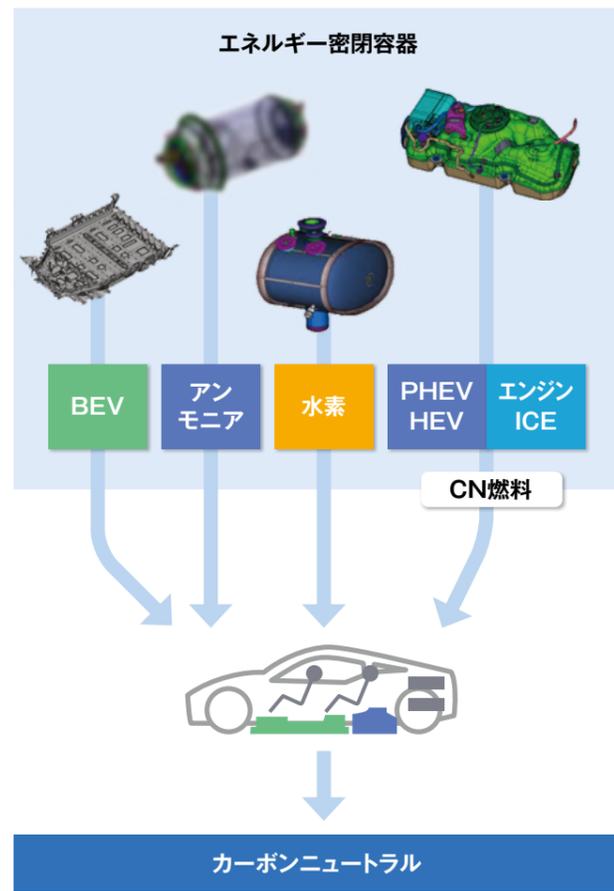
私たちは、お客様が提唱するあらゆる動力源に全方位で取り組む、「マルチパスウェイ戦略」に対応し、CN燃料に対応したタンクを開発することで、「エネルギー密閉容器の専門メーカー」としての確固たる地位を築いていきます。

毒性の高いアンモニアや-253℃という極低温の液体水素を貯蔵し、過酷な使用環境に耐えうる信頼性を確保したエネルギー密閉容器を開発する技術的ハードルは相当に高いですが、FTSが培ってきた車載用エネルギー密閉容器づくりの強みを活かして貢献できると考えています。

現在、お客様は、液体水素タンクを搭載した車両で耐久レースに参戦し、実車での走行テスト段階に入っています。弊社は、その水素タンク製作に協働して携わり、技術力と知見を高める重要な機会として取り組んでいます。

FTSという社名は、「Fuel Total Systems」の略ですが、未来のFTS「Future (Energy) Total Systems」への進化をめざします。それは単なる言葉の置き換えではなく、事業領域と技術開発における大きな変革を意味します。量産化にはまだ時間がかかりますが、カーボンニュートラルの未来に貢献できるように努めていきます。

マルチパスウェイに対する車載用エネルギー密閉容器

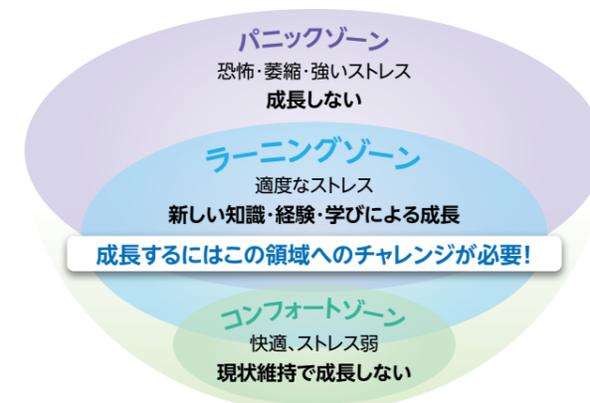


合言葉は「全員チャレンジ! "One for All, All for One"」

FTSは地域に根差した会社として、「選ばれる会社」であり続けるために、FTSポリシーで掲げる『社員の幸福』、『社会の信頼』、『絶え間ない進化』の実現に向けて努力を続けていきます。

戦略Ⅰ・Ⅱを通して生み出した経営資源は、新ビジネスへの投資だけでなく、「モノづくりは人づくり」の観点から「人への投資」として、職場環境改善や人材育成に投資していきます。ストレスや不安を感じない心理的な安心の領域を「コンフォートゾーン」といいますが、この領域に留まっていたら、成長は望めません。成長のためには、社員一人ひとりが現状の居心地のいいコンフォートゾーンから勇気を出して飛び出し、1ランク、2ランク上の視野と視座に立ち、新しい領域の仕事にチャレンジする必要があります。

チャレンジを通じた新しい経験や知識などの学びを得ることで自信を高め、成長できると考えています。私も社員と共に一歩を踏み出す勇気を持ち、自分の殻を破り、チャレンジする仲間を増やしていきます。また、お互いの価値観を認め合い、働きやすく、やりがいに満ちた仕事を通じて、人間的に成長できる風通しの良い企業風土づくりに取り組んでいきます。



これからもFTSは、「全員でチャレンジ! "One for All, All for One"」(一人ひとりみんなのために、みんな一つの目的のために)というスローガンを掲げ、全社一丸となって邁進していきます。

ボールを持って走っている人の後方には、必ず仲間がいます。全員でパスをつなぎながら、ゴールをめざしていきます。一人ひとりが、全員のために責任を果たす人間になる。そんな一人ひとりが集まり、全員で勝利に向け一丸となって進んでいく。お互いを支え合い、助け合いながら、一つの目標に向かっていく風土を大切にしていきたいと思っています。そのためには、仲間を思いやる心、周りに感謝をする心、相手に対し謙虚でいる心がとても大切になります。

FTSもオンリーワンの技術をさらに進化させ、社会に選ばれる会社、貢献し続ける会社であり続けたいと思っています。未来に向けた挑戦は始まったばかりです。しかし、全社一丸となって取り組むことで、必ずや道は開けると確信しています。これからのFTSにぜひご期待ください。



経営理念

基本理念

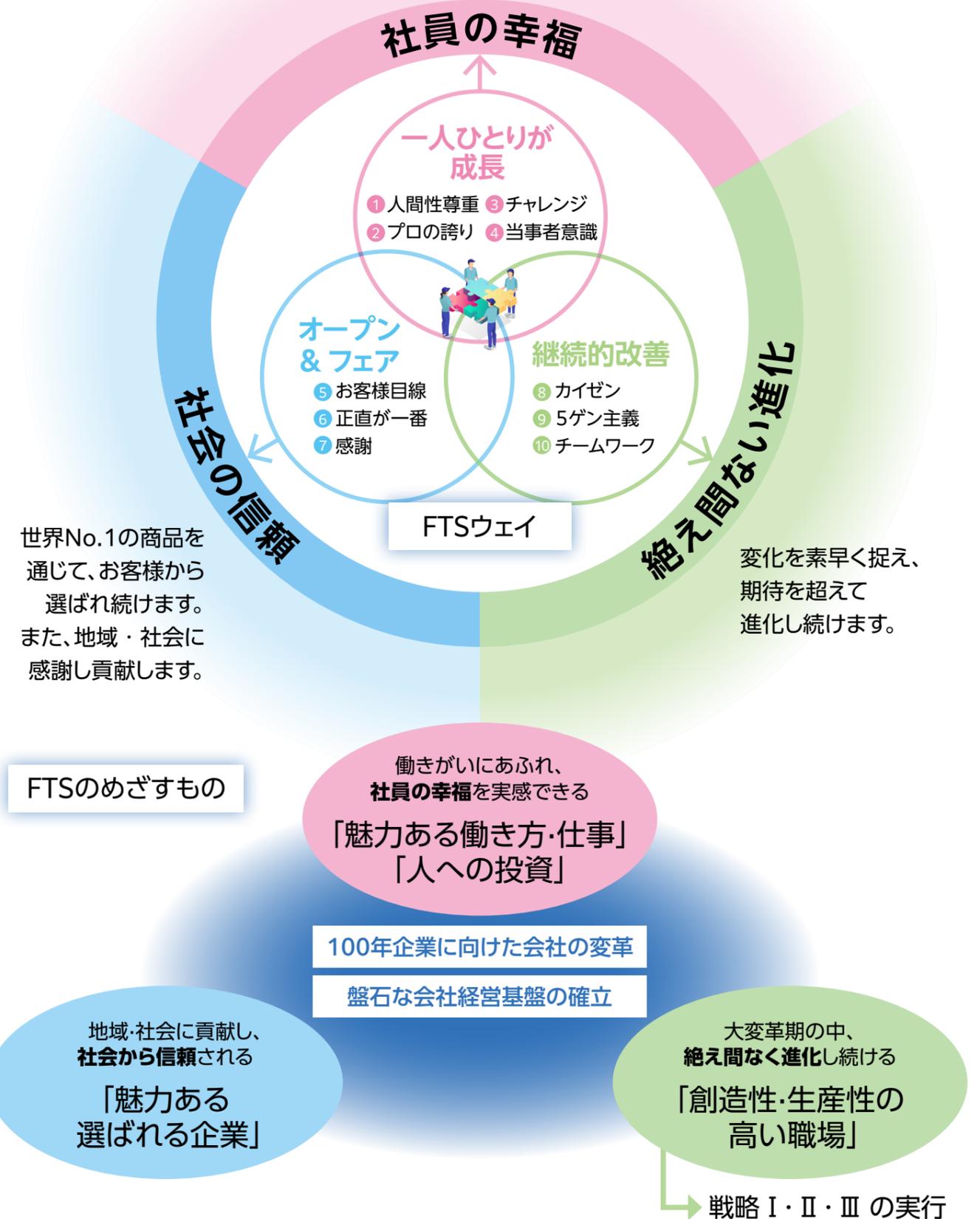
全員参加でお客様から信頼される
“ものづくり”と“人づくり”
No.1の技術と品質で世界に飛躍

経営理念

- 1 内外の法およびその精神を遵守し、オープンで公正なエネルギーシステムサプライヤーをめざします。
- 2 グローバル企業として、地域に根付いた企業活動を行い、経済・社会の発展に寄与します。
- 3 時代を先取りした研究と新たな価値の創造に努め、お客様に喜ばれる商品・サービスを提供します。
- 4 クリーンで安全な商品の提供を通して、地球環境に貢献します。
- 5 個人の創意とチャレンジ精神を育み、チームワークの強みを生かし、やりがいのあるいきいきとした企業風土をつくります。

FTSポリシー

一人ひとりの創意・誠意・熱意と人の和で、
企業の継続的な成長と共に、
社員の人的成長と豊かな生活を実現します。



創業期 プレス深絞り技術の 強みを活かした事業拡大

1948
『プレス深絞り技術の堀江』の名声
トヨタ自動車工業(株)より部品3点を
初受注

1953
トヨタ自動車工業(株)より
フューエルタンク 初受注



受注当初のSF型乗用車用
フューエルタンク

1956 社是制定
「よい品を創意、誠意、熱意と人の和で」



1944
堀江金属工業
株式会社へ改名

1942
創立

株式会社
堀江金属品製作所設立



創業者
堀江善四郎氏

1961 豊田工場完成
(現 本社工場)



1971 鋼板加工センター 操業
(現 スチールセンター)

燃料系自動車部品 メーカーとして再出発

1977 経営体制の強化
スローガン「3つのねばり」
品質・原価管理システムの
確立と改善推進



1981
トヨタ品質管理優秀賞 初受賞

1981 本社を鴻ノ巣町に移転
1981 広田工場 操業
1985 田原工場 操業

TPS導入
(トヨタ生産方式)

1972
再出発

グローバル進出

FTSタイ、
FTSインドネシア設立



1997
東京モーターショー初出展



1999 ISO9001取得
2002 ISO14000取得
(本社・本社工場、
広田工場、
スチールセンター)
2005 トヨタ自動車(株)より
『品質管理優秀賞』
受賞

(株)エフティエス設立
樹脂タンク事業スタート

2004
FTSカルフォルニア設立



2005 新豊田工場 操業
2006 岩手工場 操業

第2の創業期 燃料系システムサプライヤー としての深化と進化

2014~18
経営体制強化活動
VS: 商品力強化
CR: 限量経営
FG: 真のグローバル化

2014 FTSポリシー
FTSウェイ制定

2016 「女性活躍推進PTチーム」発足
2017 『あいち女性輝きカンパニー』認証
「FTS健康宣言」(3本柱活動)

堀江金属工業(株)と
(株)エフティエス合併

2008
FTS設立

グローバル拡大

2011
FTSケンタッキー設立
カルフォルニアから
ケンタッキーへ
移転・社名変更

2015
FTS九州(大分工場)設立

2016
FTSメキシコ設立



2017
FTS台湾設立



2018
FTSテネシー設立



2020
FTS九州(福岡工場)設立

2018~現在 職場風土改革推進

2019 「健康経営優良法人」ホワイト500初認定
(2025年度まで7年連続認定中)

2021 「あいち健康経営アワード」受賞
2021 SDGs宣言、
カーボンニュートラル宣言

2022 「豊田市はたらく人が
イキイキ輝く事業所」大賞受賞

2024 くるみん認定



2025

2024

2019

2013~
職場環境改善活動の
推進

2018
本社本館1F改装



2019
豊田工場 事務所改装



2020
スチールC事務所改装



2019 耐火試験棟新設
システムサプライヤーとして
技術評価力の向上



2022
本社2号館フロア改装



2022
本社厚生センター改装



第3の創業期 エネルギー密閉容器の 専門メーカーへの挑戦

2042
100年企業

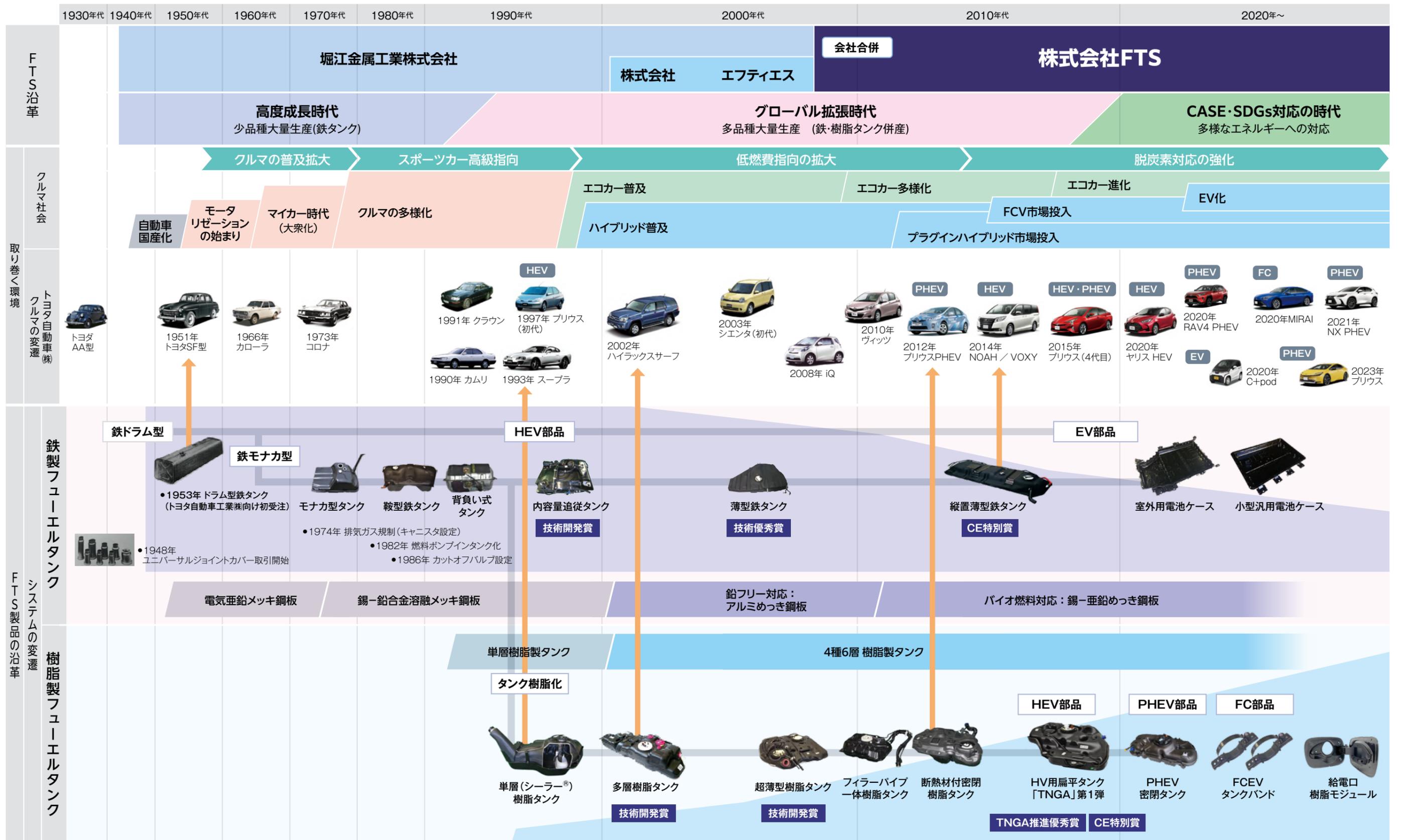
2030

2027
85周年

FTSの事業の深化・進化と価値創造の歴史

FTS製品の変革(1930年代~現在)

私たちFTSは、人間性尊重を基軸にグローバル企業として社員一人ひとりが新たな価値の創造に努め、お客様に喜ばれる商品・サービスを提供するエネルギーシステムサプライヤーをめざして、先人達の想いを受け継ぎながら『変革』と『挑戦』を合言葉に成長してきました。持続可能な社会の実現に向けて更なる深化・進化を続け、環境と人にやさしい技術を通じた明日の「ものづくり」を実現します。



画像提供: トヨタ自動車(株)

FTSの強みと主要製品

FTSの強み

事業の持続的成長を支える人材育成と健康経営の推進

トヨタ系システムサプライヤーとして、クルマの動力源であるエネルギー（燃料等）を安全安心に貯蔵する“重要保安部品”である鉄製・樹脂製の車載用エネルギー密閉容器づくりのノウハウ

- ビジネスの大前提である安全、防火管理体制
- 確かな技術力、ものづくり力 及び信頼性の高い品質と高いシェア
- 開発・設計から製造・販売まで手掛けるものづくり一貫体制

ものづくり一貫体制



主要製品紹介

FTSでは、フューエルタンクをはじめとした様々な製品において、衝突安全性、耐腐食性、耐久性、軽量化、コスト低減、環境負荷低減などのハイレベルのニーズに対応しています。

**燃料系
主要製品**

フィルターパイプ
 金属製

フューエルリッド
 鉄製

フューエルタンク/タンクバンド
 鉄製

樹脂製

樹脂製

樹脂製

**電動化
対応製品**

PHEV・BEV・FCEVシステム

**PHEV車両用
電池ケース**

**給電口樹脂
リッドモジュール**

FCEVタンクバンド

将来Vision (成長・価値創造戦略)

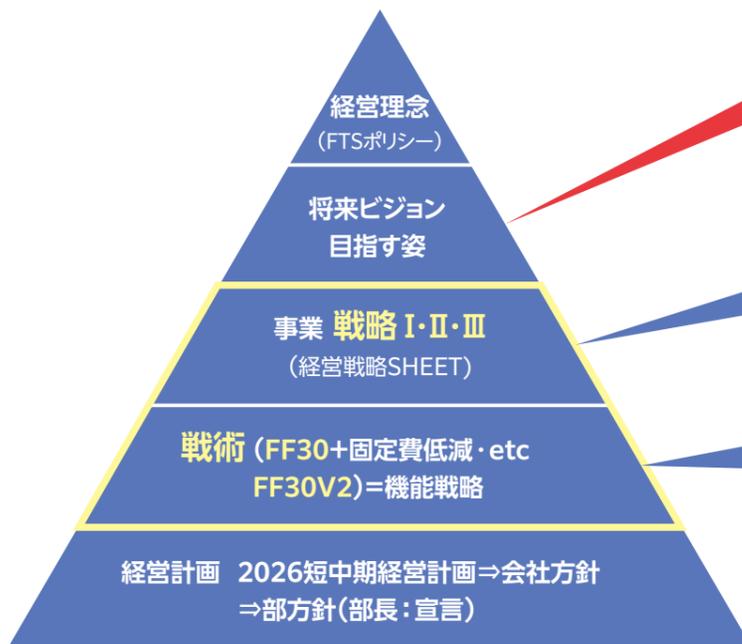


総合企画本部長
梶川 勝弘

2025年、自動車業界の将来性は相変わらず不透明です。不透明にしているのはグローバルの潮流変化(各市場の伸び悩み、CN、電動化、経済安保、ブロック化の進展など)があり、それぞれの変化に対応できないと事業継続・成長は望めません。上記の変化に対応できる様に戦略I・II・IIIを立案し遂行していますが、2024年前半では戦略Iをより具体的に活動としてFF30(FTS Future 2030)を立上げ、足元の課題解決を含めた各工場の将来シナリオを各部代表者とつくり上げ、2024年後半では実行に移りました。

FF30のシナリオから、将来の新製品についても少しずつ見えてきたので、2025年では更なる飛躍を目指してFF30 Version2として具体的な製品シナリオ(マルチパスウェイ対応)をエネルギー密閉容器の専門メーカーとして考えていきます。

戦略企画担当役員メッセージ

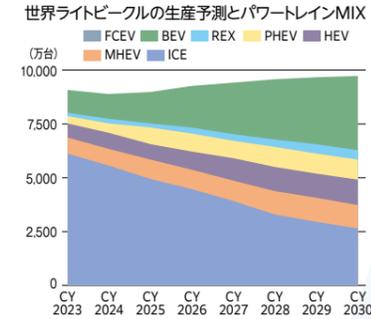


FTS2026 ビジョン
環境変化に柔軟に対応し、No.1の品質・技術・生産力をモノづくりの技で磨き、お客様に喜ばれる商品を創り続ける **エネルギーシステムサプライヤー**

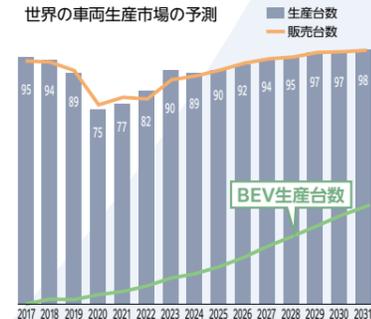
3つの戦略
I. 環境認識・分析とコアビジネスの限量経営
II. コアビジネスを磨き高付加価値化
III. 新規ビジネスの攻め方

FF30 (FTS Future 2030) 2024年3月開始～
FTSの将来を考える 全社プロジェクト活動

1) 電動化加速の現状 FTS独自予測



2) 世界マクロトレンド FTS独自予測



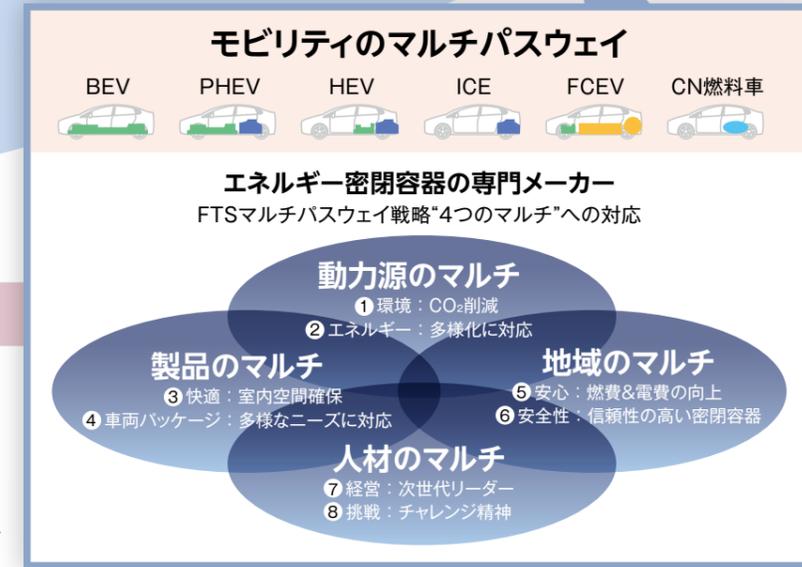
100年企業に向けた 会社の変革

更なる 飛躍年 2027～2030

極めて重要な 3ヶ年



- 商品力強化 (VS)
- 真のグローバル化 (FG)
- 限量経営 (CR)
- エネルギーシステム サプライヤーへの進化 (Shift)
- 経営体質の更なる深化 (Beyond)
- グローバルの有機的連携の強化 (Link)



将来Vision（成長に向けた戦略と戦術）

戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ と戦術 FF30

戦略：100年企業に向けて 目指す姿(会社の変革)

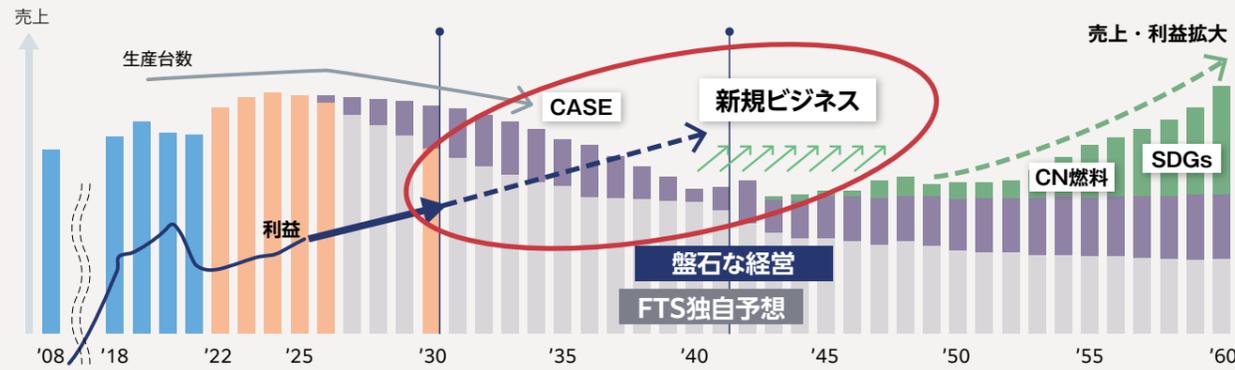
戦術：「戦略」を実現する具体的な骨太シナリオ



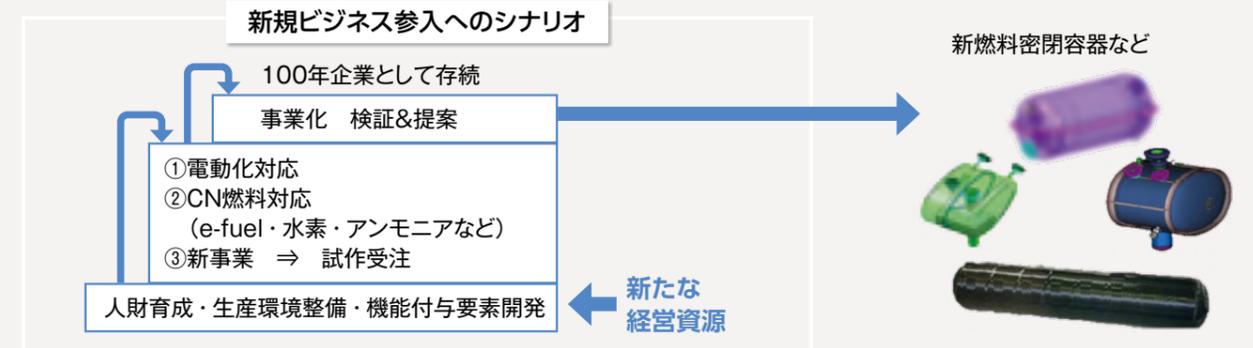
戦略(目指す姿)

戦術(方策)

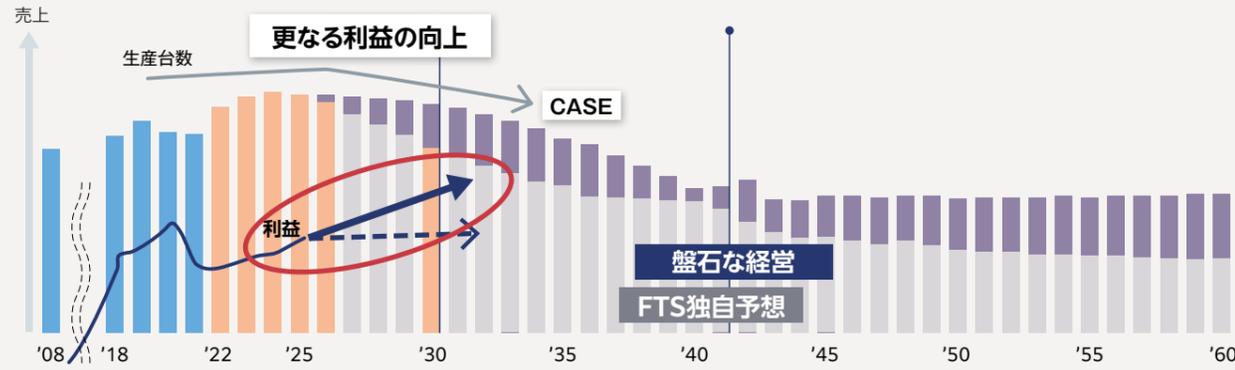
戦略Ⅲ 新規ビジネスへの攻め方



FF30 Version3 新技術・新工法を活かし新しいコトへ継続的挑戦



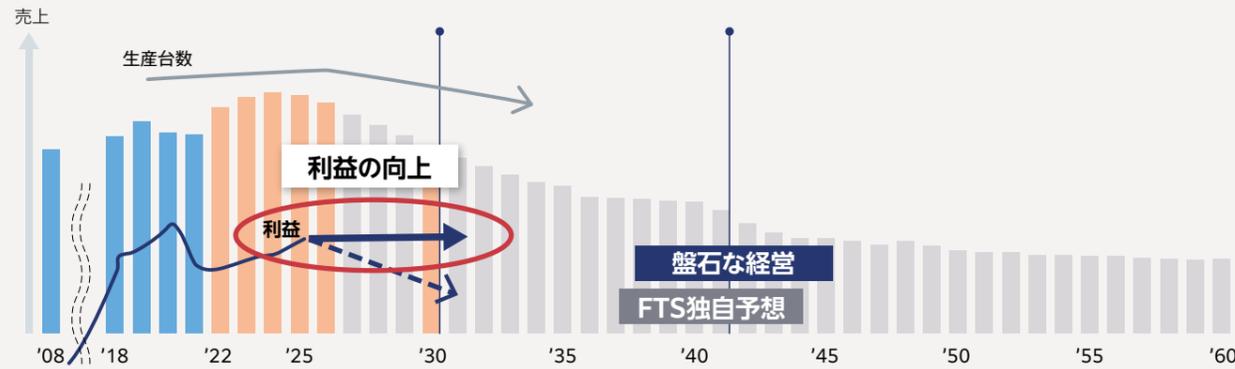
戦略Ⅱ コアビジネスを磨き 高付加価値化



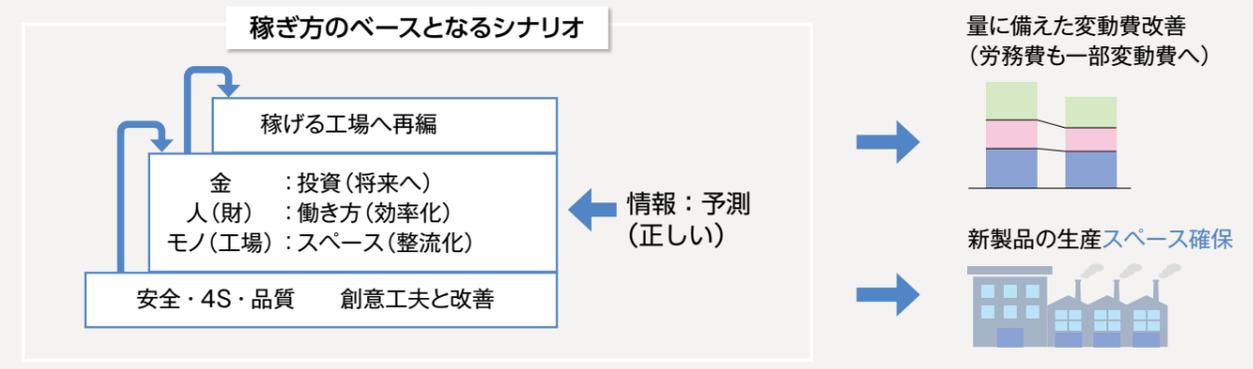
FF30 Version2 将来に挑戦する開発チームづくりと人財育成



戦略Ⅰ 環境認識・分析とコアビジネスの限量経営(2030年 利益率 10%)



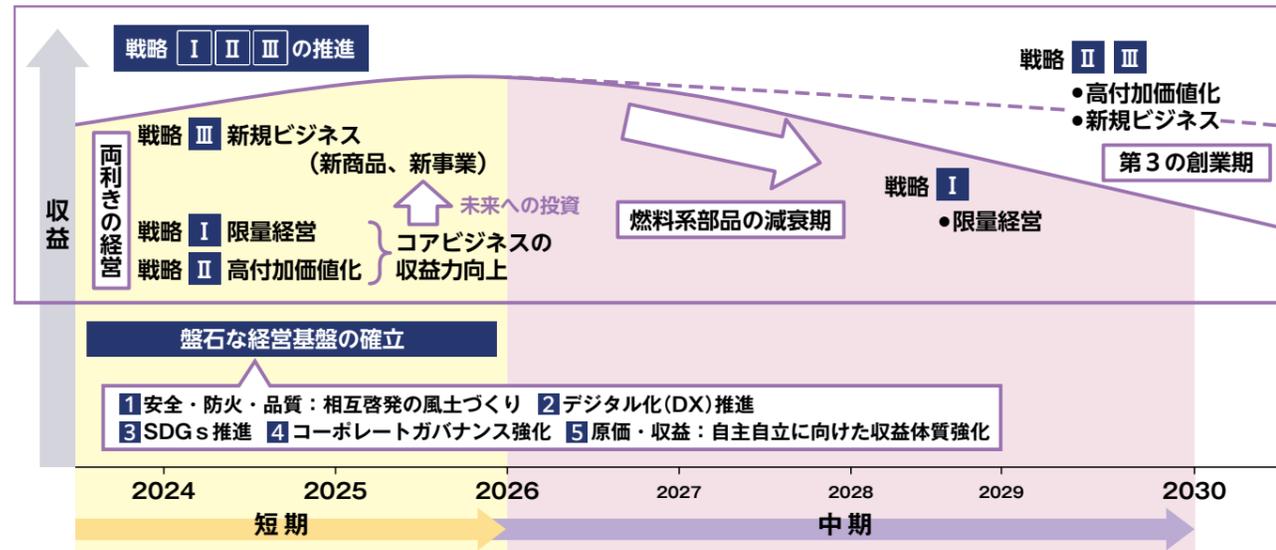
FF30 経営資源のムリ・ムダ・ムラを見える化・全社俯瞰で改善



100年企業に向けた会社の変革(戦略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)

会社変革のための戦略推進

燃料系減衰期に負けない“稼ぐ力の底上げ”と“持続的成長”



戦略Ⅰ 環境認識・分析とコアビジネスの限量経営



グローバル本部長・CFO
小山 秀実

経理担当役員メッセージ

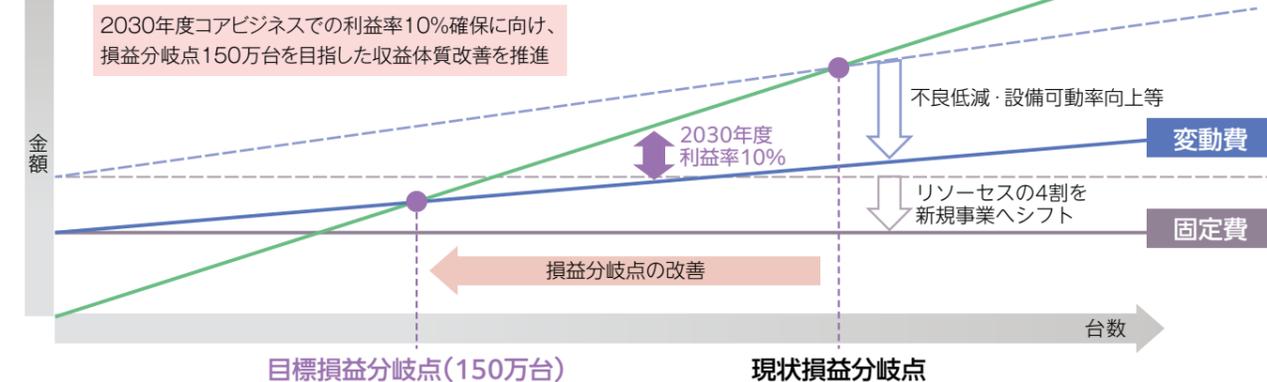
燃料系部品の減衰という環境下において、100年企業を目指し持続的に成長していくために、限量経営の仕組みを整備し、現在のコアビジネスを徹底的に効率化して限られた生産量でもしっかりと稼ぐ収益体質を実現するとともに、コアビジネスの高付加価値化や新規ビジネスの開拓に必要なヒト・モノ・カネのリソースを捻出していきます。2030年にコアビジネスの利益率10%という目標を掲げ、利益計画と生産KPI目標を直接リンクした変動費低減活動や、「今の仕事を6割のリソースでこなす」ための、抜本的な生産性向上や業務の見直しによる固定費適正化活動を、全社一丸となって推進していきます。またグローバルFTSとしても、各拠点固有の経営課題への対応を行いつつ、限量経営の仕組みを標準化し、将来の環境変化に対応出来る収益体質を目指して改善に取り組んでいきます。

1 限量経営のめざす姿

2030年度に利益率10%という高い目標を掲げて、体質強化活動を推進しています。

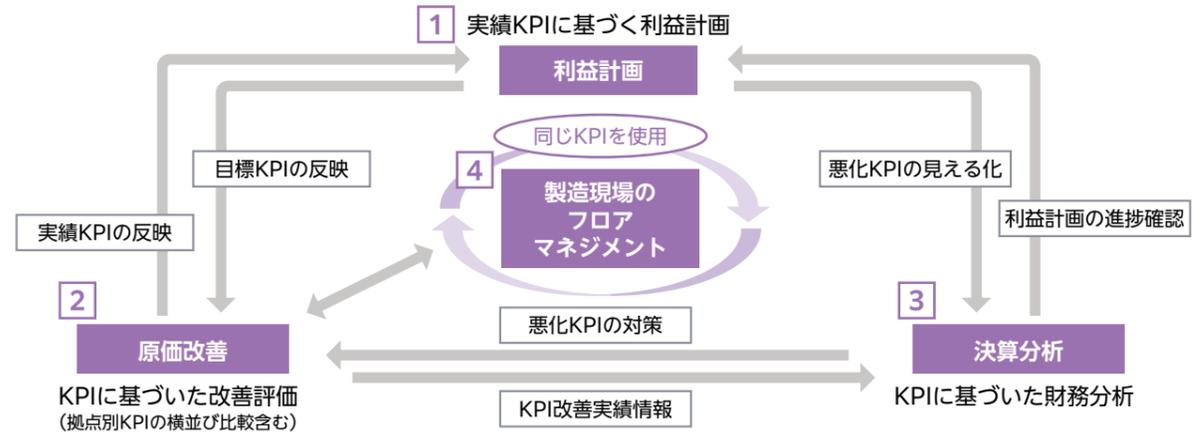
コアビジネスの収益体質改善

- 限量経営＝生産量に対し限られた資源で効率よく経営すること



2 限量経営のための仕組みを標準化(限量経営パッケージ)

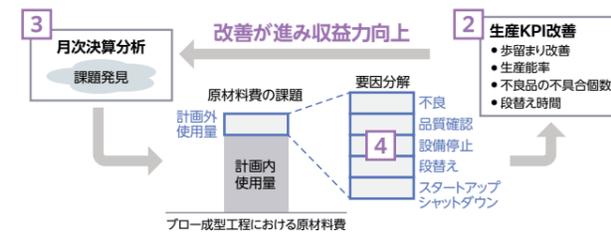
経営管理(利益計画/決算分析)と製造現場活動(生産管理/原価改善)に同一のKPIを用い、全社一体となって効率的な収益体質の改善を実施しています。



3 変動費低減/固定費適正化の取り組み

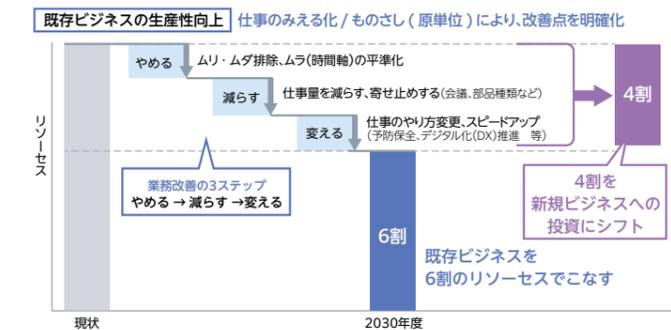
変動費低減の取り組み例(樹脂タンクの原材料費)

- 経営指標と生産KPIを紐づけて、日頃の改善の成果によってどれだけ貢献できたかをわかる仕組み



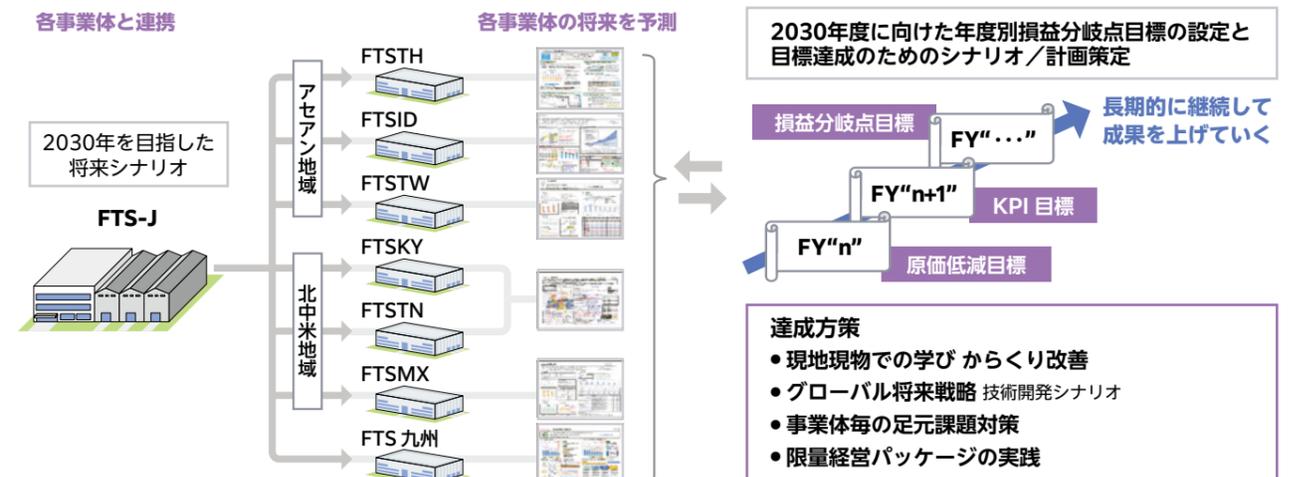
収益確保のための重点課題の明確化/生産KPI改善の効果額見える化

固定費適正化の考え方



4 グローバルFTSとしての取り組み

国内外の子会社各事業体においても、それぞれの将来予測に基づき課題を整理し、2030年度の損益分岐点目標の達成に向けたシナリオを策定して、共通のフレームワーク(限量経営パッケージ)を用いて、年度毎に着実に実行して行きます。



戦略Ⅱ・Ⅲ コアビジネス(燃料系)の高付加価値化と新規ビジネスの創出



R&D 本部長
岩本 宏明

開発・技術担当役員メッセージ

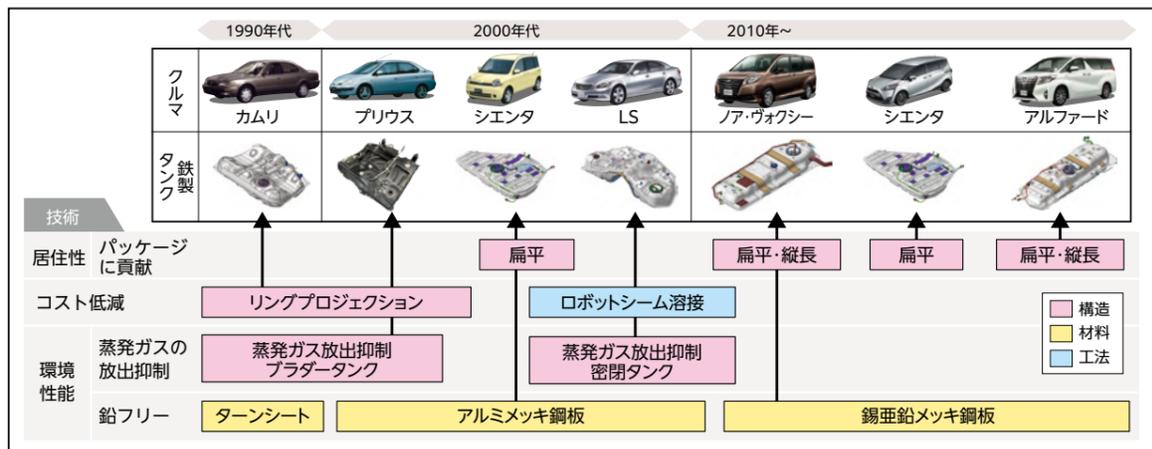
FTSは鉄製、樹脂製の燃料タンクで培ってきた領域の強みを更に進化させ、「エネルギー密閉容器の専門メーカー」として、カーボンニュートラルやSDGsの実現、社会課題の解決に貢献して参ります。FTSが考えるマルチパスウェイは「動力源」「製品」「地域」「人材育成」のマルチ化を柱とし、電動化製品や未来のカーボンニュートラル燃料の密閉容器にもチャレンジします。実現に向けて、社内外の仲間づくりと人づくりはとて大切と思っています。新たに関係会社との枠組みもつくり、グローバルで推進していくことを目指します。One for All, All for One! 明るい未来の実現に尽力して参りますのでご期待ください。

1 コアビジネス(燃料系)の技術変遷

車の燃料を安全・安心に貯蔵する**重要保安部品**として、**鉄製/樹脂製の燃料タンクを一貫して開発/生産、「材料」・「構造」・「工法」を進化させて**お客様のニーズに応えて参りました。

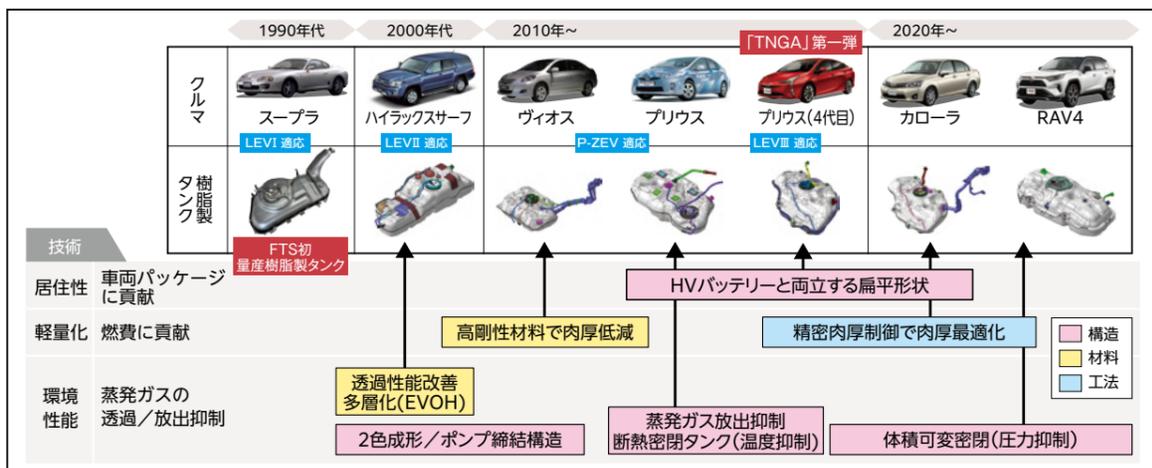
鉄タンクの歴史:

鋼板の深絞り、扁平形状でクルマのパッケージに貢献。**防錆性能の高い材料、蒸発ガス抑制構造**により環境への配慮や、**連続接合**で生産性を高めて廉価なモノづくりにも貢献して参りました。



樹脂タンクの歴史:

複雑な形状を一体成形することで、クルマの商品力を向上(室内広さとHEVバッテリーの搭載)させています。また、**剛性の高い材料や、精密に板厚を制御**することにより軽量化、燃費向上に貢献して参りました。



2 戦略Ⅱ・Ⅲ 取り組み方針

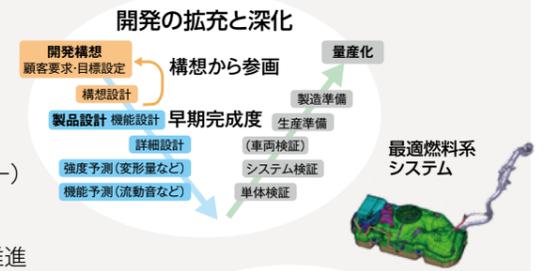
大変革期のなか100年企業を目指し、「**エネルギー密閉容器の専門メーカー**」として

戦略Ⅱ:コアビジネスの高付加価値化、**戦略Ⅲ:新規ビジネスの創出**を掲げ、環境課題の解決を推進しています。

戦略Ⅱ・Ⅲ コアビジネス(燃料系)の高付加価値化

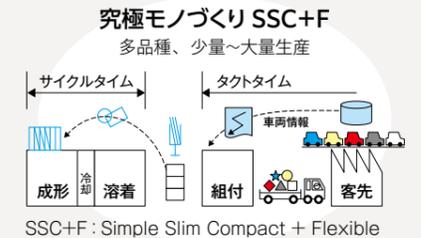
■ 燃料系システムサプライヤーとしての責務

- システム開発の委託拡充と深化
構想段階から参画、**最適燃料システム**の提案(既存タンクの活用と統一)
- グローバル対応(1000万台 ICE・HEV・PHEV)
良品廉価なタンクを最後の1台まで造り続け、**グローバル同一品質**を推進



■ 究極モノづくり

- 既存アセット活用**(型・設備投資削減 仕入先含む)
- 超多品種少量・補給生産 **SSC+Fの更なる進化**(生産性向上3%/年)
- 整流化:社内外在庫削減、外部倉庫流出金廃止



戦略Ⅲ・Ⅲ 新規ビジネスの創出 “顧客の拡大”、“製品の拡張”、“新事業の開拓”に挑戦

■ 顧客の拡大

- 内燃機関の持続的活用(残存者利益)

A: コア人材
各社のニーズ・プロセスに対応

C: マルチ人材
システム思考・未来志向
技術・マーケティング、協調

■ 新事業の開拓

- 循環型モビリティパーツ
- 環境サステナビリティ など

■ 製品の拡張

- 既存タンクを新燃料へ活用(例: バイオ燃料、合成燃料タンク)
- 電動車への貢献(例: 電池ケース、充電リッド)
- カーボンニュートラル燃料容器(例: 水素タンク、アンモニアタンク)



マルチな人材 モノづくりは人づくり

A: コア人材の拡充 と 新たな領域に挑戦する B: 新領域人材、C: マルチ人材 の採用/育成

地域 Mobility for All

すべての人に移動の自由を目指し、**地域に応じた動力源システムを“仲間と連携”**して実現



地域別“FTSの役目”

◎: 開発・生産 ○: 生産 (○): 今後検討

	タンク	電池系	CN容器
日本	◎	◎	◎
北中米	○	(○)	
アジア	○	(○)	
欧州・中国・GS			

CN容器: カーボンニュートラル燃料容器
GS: グローバルサウス

3 戦略Ⅱ・Ⅲ 製品戦略(エネルギー密閉容器の拡大)

“Fuel Total Systems” から “Future Energy Total Systems” へ

鉄/樹脂タンクで培ってきた強み『モノづくり一貫体制』にて、最適なソリューションを提案・提供。
モビリティの進化と未来のエネルギーに寄り添い「エネルギー密閉容器の専門メーカー」として環境課題の解決に貢献し続けます。

もっといいクルマづくり

- 低くてカッコいい
- 室内、荷室が広い
- 安全安心
- 経済性が高い



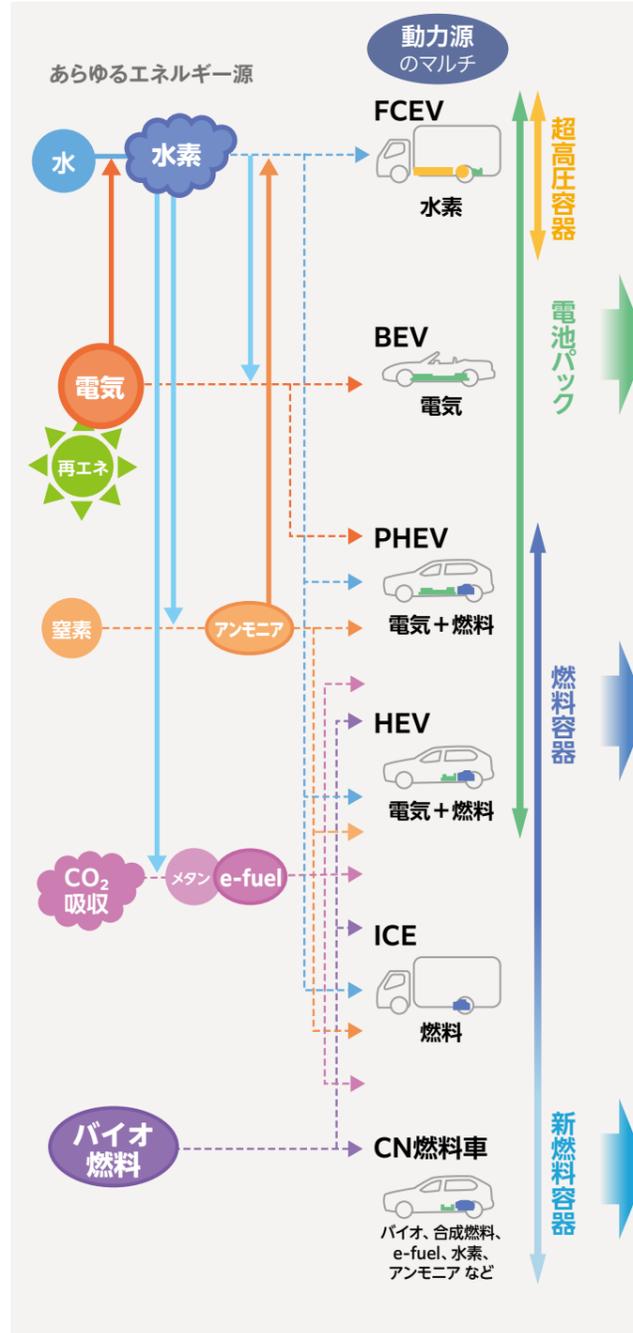
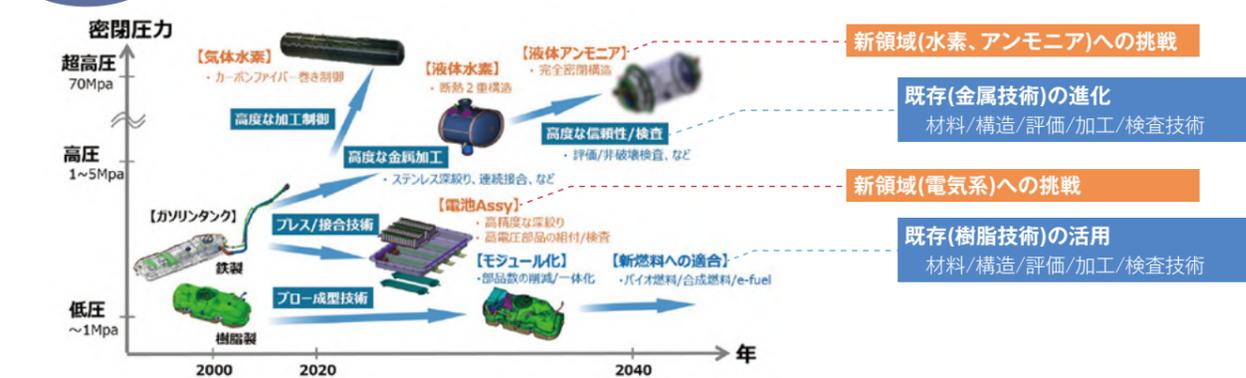
FTS強み

床下機能部品の知見

- 電池: 低ハイト化、廉価、軽量化
- タンク: 環境性能、扁平、廉価、軽量化



製品のマルチ タンクで培った強みを進化/活用して、様々な『エネルギー密閉容器』の品揃え



新規ビジネス(電動化への貢献) 2025 2030

◆電池ケース

Step1
・部品削減(シンプル構造)

PHEVの大型電池ケース

RAV4~ プリウス~

【必要技術】
・成型解析
・高度なモノづくり
(深絞り、接着剤の精密塗布、防錆塗料膜厚制御)

Step 2
部品拡大('26~)

金属製アンダーカバー

Step 3
機能付与(開発中)

多機能シール構造
(火災漏れ防止、易解体性)

電池ケース・冷却器の一体化

◆電池Assy (量産:'30~)

挑戦

BMS (バッテリーマネジメントシステム)

マイカ板

ECU

J/B (ジャンクションBox)

電池セル

電池ケース

高電圧部品の組付、検査(技術確立中)

コアビジネスの高付加価値化 2025 2030

◆燃料系システムサプライヤー(現在)

タンク関連部品を含めて、廉価で軽量化システムを開発

キャニスタ・封鎖弁

- ・気化燃料を一旦吸着
- ・エンジンへ送って燃焼(燃費向上)

ファイラ・リッド

- ・燃料をタンクへ導く

燃料タンク

- ・燃料を貯蔵
- ・気化燃料を密閉(環境に優しい)

燃料ポンプ

- ・燃料をエンジンへ送る
- ・燃料モレ、燃料キレ防止(安全)

◆既存タンクの持続的な活用

- ・モジュール(一体化)('26~)
- (部品を束ねて車両工場へ納入、物流・組立の効率化)

関連部品の搭載

キャニスタ 封鎖弁

配管の短縮・一体化で原価低減

◆新燃料への適合(量産:'30以降~)

自然由来のエネルギーで生成される燃料
(バイオ燃料、合成燃料、e-fuel)

新規ビジネス(新燃料容器) 2025 2030 2040

◆液体水素の密閉容器(量産:'30以降~)

挑戦

世界初! モータースポーツで実証を開始('24~)

水素仲間企業と連携して
容器則の学び、評価基準づくり、新構造開発と充填認可取得

【狙い】
・極低温を保持する「断熱2重構造」
・容量UPする「精円断面形状」

【必要技術】
・構造開発、評価/解析技術
・高度な金属加工
(SUS厚板・高精度深絞り、連続接合 など)

◆アンモニアの密閉容器(量産:'35以降~)

挑戦

世界初! を目指して、先行試作 '24、検証'25~

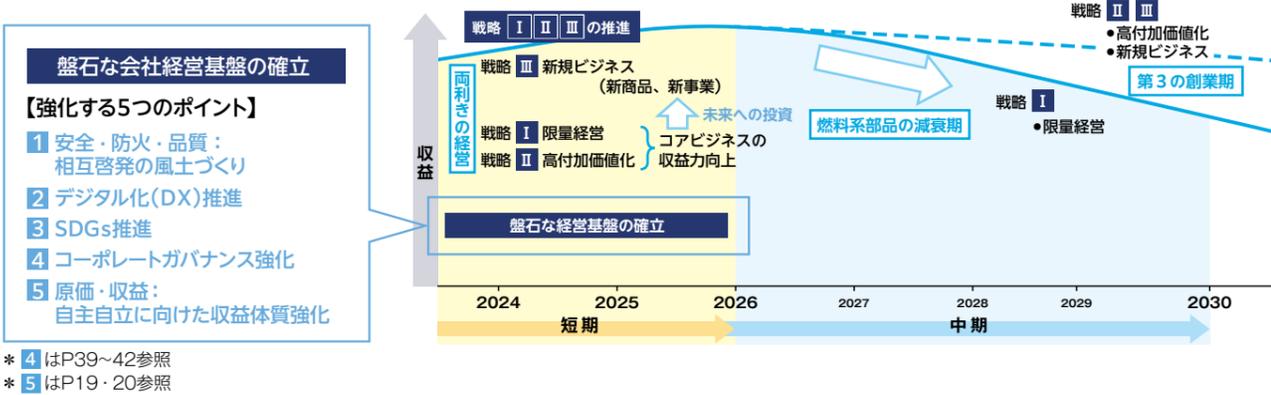
関係会社と連携して
評価基準づくり、安全安心な 圧力密閉容器(先行開発中)

【狙い】
・絶対に漏れない「耐圧構造」
・容積効率UPする「部品配置」

【必要技術】
・耐圧構造開発、解析/評価技術(非破壊検査 など)
・高度な金属加工
(鉄厚板・高精度深絞り、連続接合 など)

盤石な会社経営基盤の確立

経営基盤強化の5つのポイント



1 安全・防火・品質：相互啓発の風土づくり



TQM 本部長
萩森 修

TQMの理念はお客様(社会/会社/家族/自分自身)の為に、全員参加で 絶え間なく 改善を推進する事。安全も防火も そして品質も FTSに集う全員 一人ひとりがリーダー。個々人の気づきや改善、その一つひとつが、例え些細なモノでも国内は元よりグローバルに拡散する事で、堅固確実多大な安全安心信頼へと成長を遂げます。昨日よりも今日、今日よりも明日、現状に甘んじる事なく更なる改善をめざします。

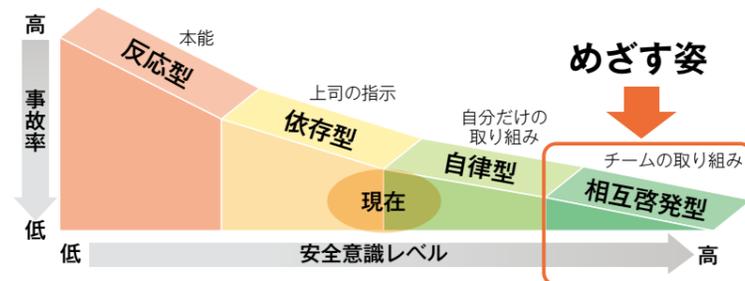
私たちのめざす姿
安全/防火：相互啓発型安全文化の構築
品質：未然防止型品質向上活動の定着

安全・品質担当役員メッセージ

■ 安全文化構築

「安全な作業、確実な作業、熟練した作業/安全な作業は作業の入り口/私たちはまずしっかりとこの入口を通ります」を念頭に、相互啓発型の安全文化の構築を推進しています。そのために、資格取得や教育機会などの学びの場を充実させ、知識・意識の向上を図ると共に、トップダウン/ボトムアップ双方の意見を尊重し、互いに思いやる風土の醸成をめざした活動を推進しています。

安全文化発展モデル



グローバル情報共有フロー



労働災害発生頻度(休業度数率)

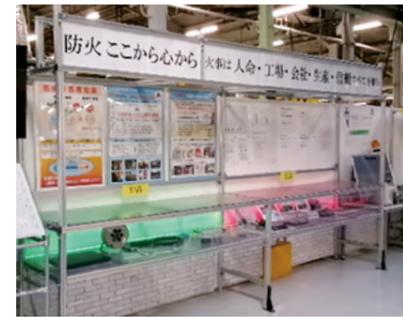


出典：厚生労働省「労働災害動向調査」

■ 防火活動

「火災は全てを喪失(人命、工場、会社、生産、信頼)」を念頭に、トップの率先垂範による強化活動を推進しています。プレス・溶接・塗装・成形等の多種多様な工法・工程・工場の特徴・特質に応じた防火対策として、可燃物・源の隔離や火災リスクアセスメントの実施、展開などを行い、一人ひとりの防火意識向上と活動を風化させない取り組みを行っています。

本社工場防火コーナー



防火新聞による啓蒙活動



防火トップ点検



粉じん爆発体験機

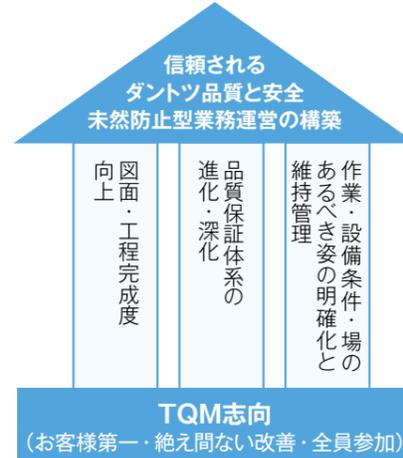


■ 品質向上活動

お客様の安全に関わる重要保安部品の品質造り込みとその維持改善のため下記を重点に推進しています。

- フロントローディング：「開発、設計初期段階から品質を造り込む」
過去及び現在の号口生産課題対策と再発防止の反映、新規変化点对応を重点に施策を立案しています。
また、各部門及び前後工程の役割、期待値を明確にし、生産準における標準オペレーションを継続的に改善しています。
- 全社会議体によるトップ主導の品質向上活動(品質会議/工場品質改善委員会)
市場、顧客納入品質状況及び製造、生産技術、設計各部の品質活動を共有し、守れる/守りやすい作業改善と訓練場整備、工程内課題及び量産での設計課題の撲滅、品質課題の横展と標準化(オールグリーン活動)を推進しています。

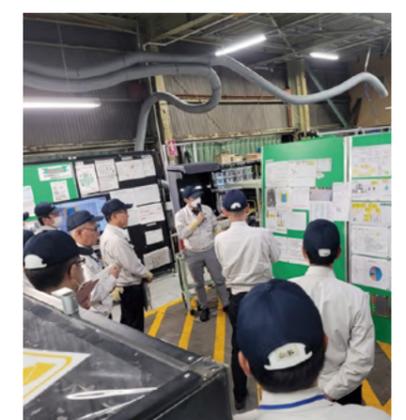
品質の取り組み



品質向上活動の図



品質会議



盤石な会社経営基盤の確立

2 デジタル化(DX)推進



**TQM 副本部長
赤木 正紀**

DX 推進担当役員メッセージ

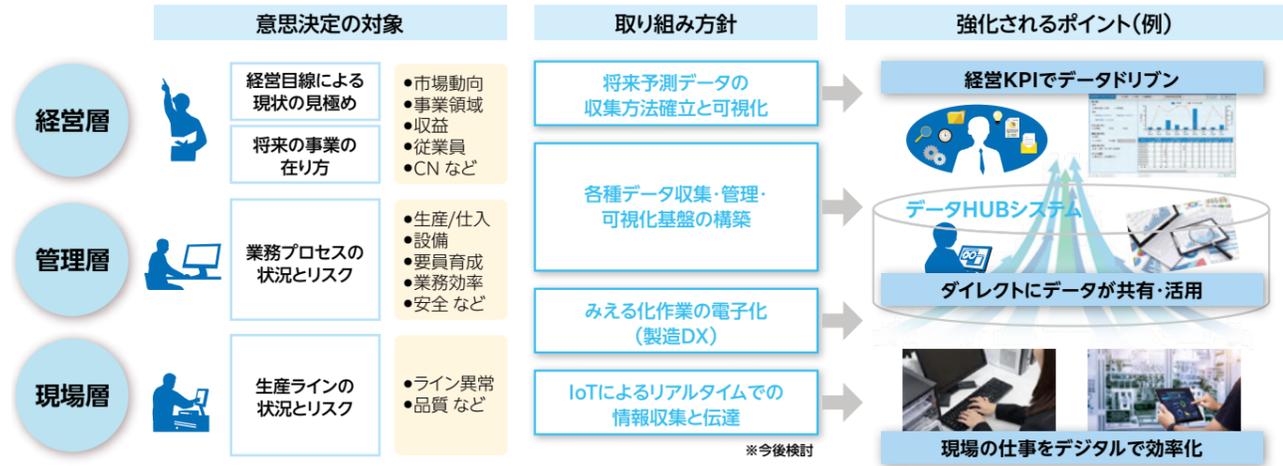
日々高度化するサイバー攻撃に対するセキュリティへの対応と社員の方々の働きやすい環境づくりを進めるため、攻めと守りを両立しながらDXを推進しています。最近では社内の様々なシステムからデータを集約しダッシュボードで見える化して活用する【データHUBシステム】という環境を構築しました。市民開発、内製開発により自分たちで必要なデータを取り出して分析し改善に繋がれるようにITリテラシーの向上、人材育成をしながら推進しています。

IT中期計画(ロードマップ)

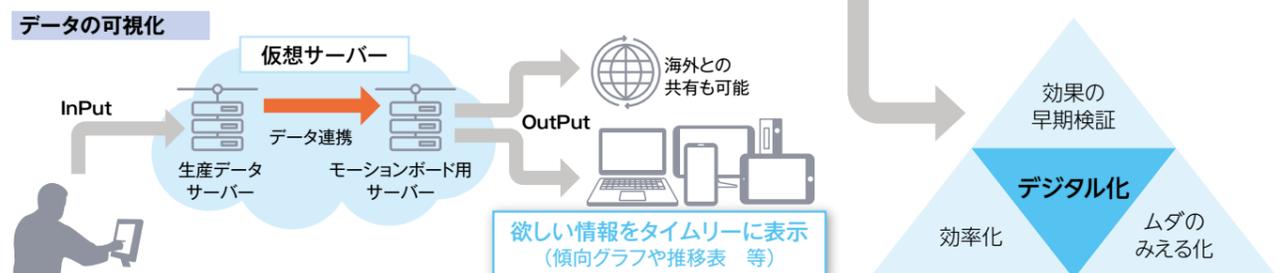
急激なビジネス領域のシフトや需要変化に対応するために基幹業務の見直し、システム先進化及び情報管理・活用基盤の整備を進めています。これにより、安心・安全品質を確保した上で、高い生産性と持続性のある事業構造を実現する事をめざします。



データHUBシステム導入 ダッシュボード活用による3層見える化とデータドリブン



HUBシステムによりデータを活用した仕事のやり方にシフトしていく



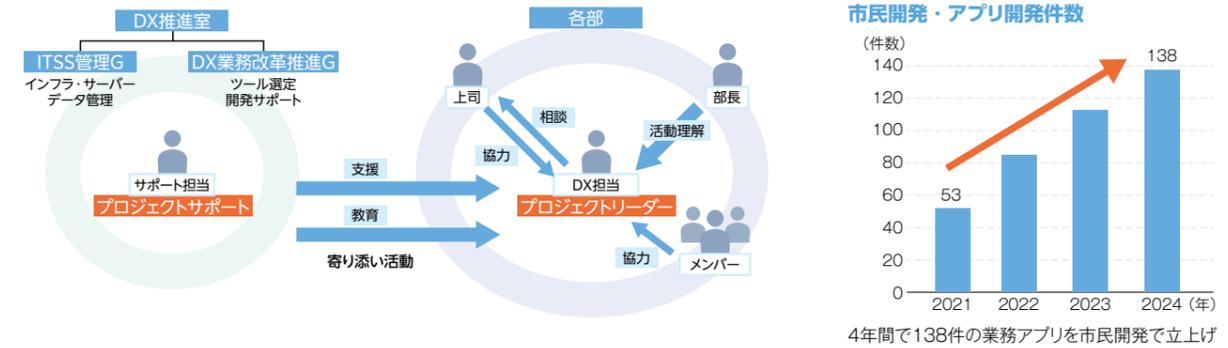
システムの市民開発と内製開発

市民開発

各部門が主体的に業務改善を行う取り組みです。開発ツールを活用して自ら業務アプリを開発し、課題を解決することで組織全体の生産性向上を目指します。

【取組体制】

DX推進室と各部署が連携し、市民開発を円滑に進めるためのサポート体制を構築しています。各部署が主体的に課題解決に取り組む一方、プロジェクトに対しDX推進室が寄り添い、教育や技術面で伴走しながら進めています。



【取組事例】調達DX：仕入先業務の効率化

仕入先との業務効率化を目的に、従来の紙回覧・承認やメール送付による手続きから、ツールを活用したデジタル化を実施しました。これにより、ペーパーレス化を実現するとともにデータの一元管理が可能となり業務の効率化と正確性が向上しました。

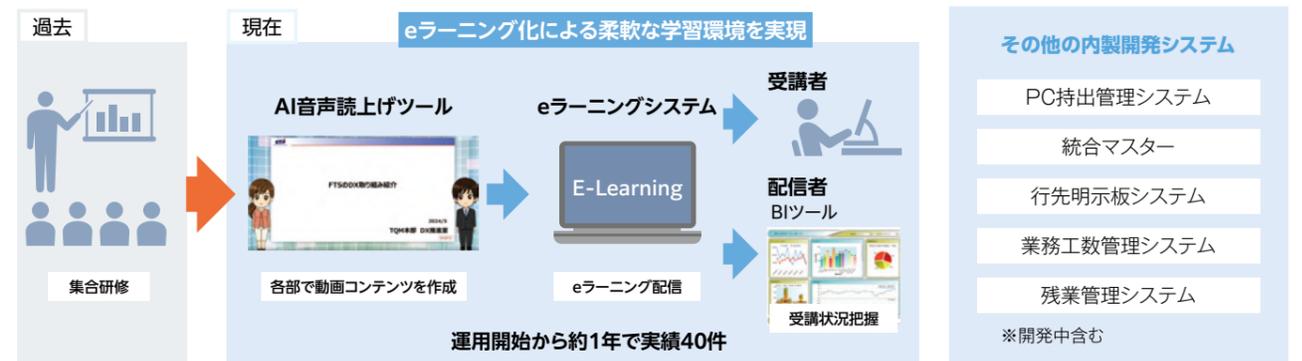


内製開発

外部のシステム開発会社(ベンダー)に依頼せず、社内で自社の業務ニーズに合わせてシステムを開発する取り組みです。この内製開発の取り組みは外部に依存することなく社内で維持管理できるため、変化に強い柔軟なシステム構築が可能になります。

【取組事例】eラーニングシステムの構築

eラーニングシステムを自社開発し、これまでは講師が対面で実施していた各種教育をオンライン化しました。



環境への取り組み



モノづくり本部長
太田 一郎

環境担当役員 メッセージ

私たちはさまざまな地球環境課題や社会課題の解決に向けて3つの柱を掲げて挑戦しています。具体的には①環境認識の高い風土と人づくり ②循環型社会への貢献 ③カーボンニュートラル推進です。これまで築き上げてきたモノづくりの強みを活かせる部分については、全員参加型でアイデアを創出し課題解決を推進していきます。また未知の領域については仲間づくりから始めて新しい発想での課題解決に挑戦していきます。これらの環境活動を通じて私たちの事業そのものの競争力を高めるとともに、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。

環境基本方針

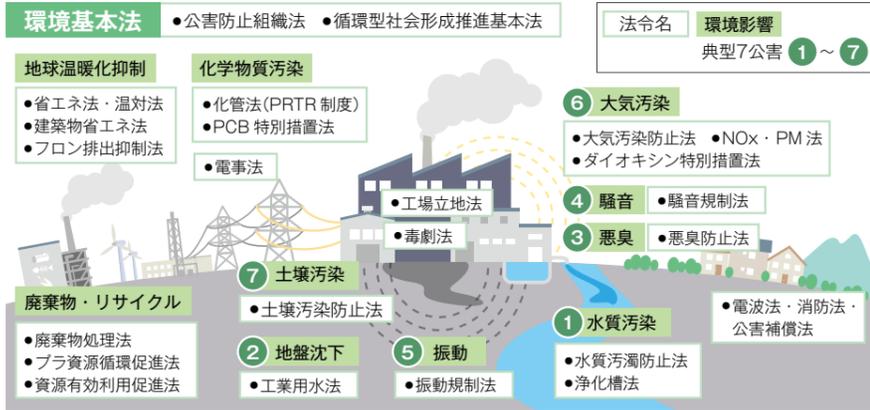
基本方針

- ISO14001に準じた環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、継続的改善に努めます。
- 環境関連法律・規制・協定を遵守します。
- 当社の重点取り組み課題に取り組み、具体的な目標を掲げて達成をめざします。
 - カーボンニュートラル及び省資源・省エネルギーの推進
 - 地球環境負荷物質の削減
 - 3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進
 - 輸送効率向上によるCO₂削減と物流梱包材使用量低減
 - 環境に配慮した製品開発
 - 環境意識の高い風土と人づくりの推進

その他、詳細は
HP参照▼



FTSを取り巻く環境法令



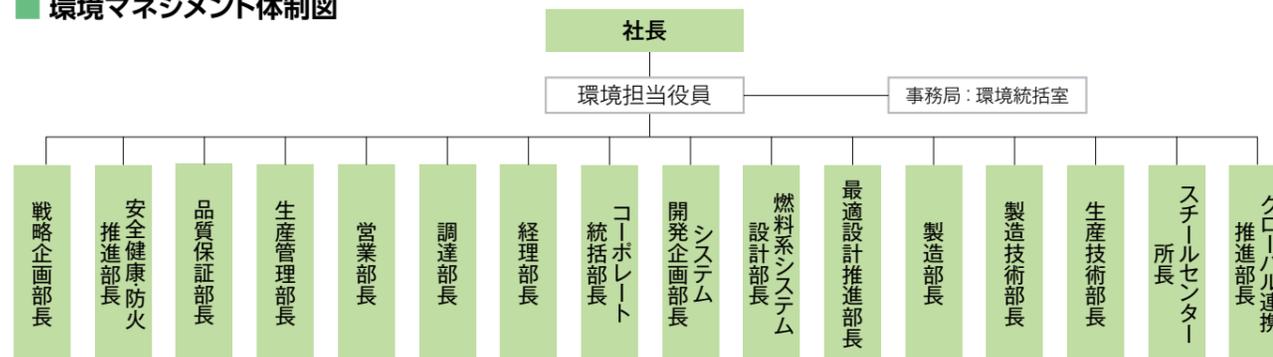
FTSの環境取り組み



環境マネジメント体制

四半期毎に環境委員会を開催し、年度方針の進捗及び結果の共有、課題解決のための方向づけ、戦略策定、意思決定などを行っています。

環境マネジメント体制図



環境中長期目標

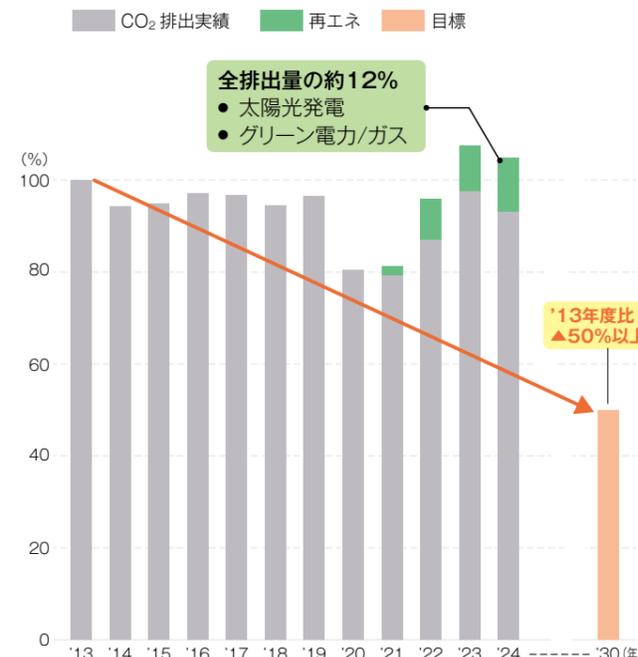
中長期目標を定めて環境負荷の削減に取り組み、地球温暖化防止やクリーンな地球環境に貢献します。

SDGsの推進を通じて社会と共生		非財務環境情報開示・グローバルで共有					
年度		2022(実績)	2023(実績)	2024(実績)	2025	2026	2030
カーボンニュートラル推進	技術革新	小型化・薄肉化・環境負荷の少ない製品設計・環境貢献新開発・水素活用					
	生技開発	エネルギーの見える化・ヒートポンプ・高効率機器の優先採用・省エネラインの構築					
	日常改善・再エネ	DXツール活用による生産L/T短縮					
循環型社会への貢献		日常改善+6つの心得・再エネの最適調達					
		水・化学物質の削減					
		環境負荷物質の削減と資源の有効活用					
環境認識の高い風土と人づくり		生物多様性への貢献					
	CO ₂ 排出量把握	CO ₂ 排出量のグローバル見える化		IoTによる見える化			
	教育体系の更新と教育	環境検定の推進	日常的考動習慣づけ			相互啓発型	
環境マネジメント推進		依存型		独立型			
		環境委員会 EMSしくみの整備					
		環境委員会 EMSしくみの整備					
		非財務環境情報開示・グローバルで共有					
1 異常・苦情		0件	0件	0件	0件	0件	0件
2 環境法令遵守		0件	0件	0件	0件	0件	0件
3 環境認識の高い人づくり(グローバル)		基幹職・GL以上	基幹職・GL以上	基幹職・GL以上・ローカル担当者	係長・担当員・ローカル担当者	係長・担当員・ローカル担当者	相互啓発型
4 カーボンニュートラルCO ₂ 排出量	国内総量ton(2013年度比)	▲20%	+8%	+5%	▲35%	▲38%	▲50%
	原単位(前年度比)	▲2.5%	▲2.2%	▲1.4%	▲1%	▲1%	▲1%
5 産業廃棄物排出量	総量(前年度目標比) ▲4%	+14%	+6%	+3.4%	▲4%	▲4%	▲4%
	廃プラ(前年度目標比) ▲5%	▲0.02%	▲13%	▲22%	▲5%	▲5%	▲5%
6 水使用量	原単位(前年度実績比) ▲1%	▲4%	▲13%	▲17%	▲1%	▲1%	▲1%
7 特定化学物質質量(前年度実績比) ▲1%		▲18%	▲4%	▲4.3%	▲1%	▲1%	▲1%

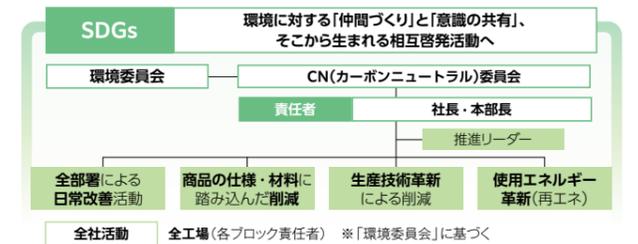
カーボンニュートラル推進

2030年度にCO₂排出量50%削減(13年比)の目標を掲げ、環境組織体制整備及びCN委員会を設置し、全社一丸となり、日常改善・材料/構造・生技革新・再エネ活用の4チーム編成でCO₂削減に取り組んでいます。

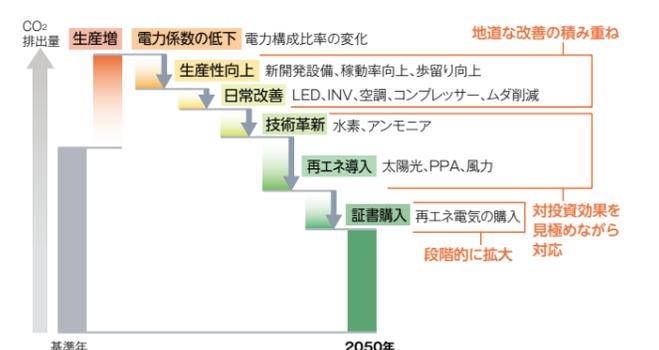
脱炭素社会の構築



「CN委員会」活動メンバー



CO₂削減の取り組み



カーボンニュートラル推進

2024年度外部評価

CDP評価：気候変動



再生可能エネルギーの活用

太陽光パネルを3工場に、風力発電を本社に設置し、2021年より年間電力使用量のおよそ3%を賅っています。また、太陽光パネルは子会社であるFTS九州や一部の海外子会社でも採用しています。

太陽光発電導入



豊田工場

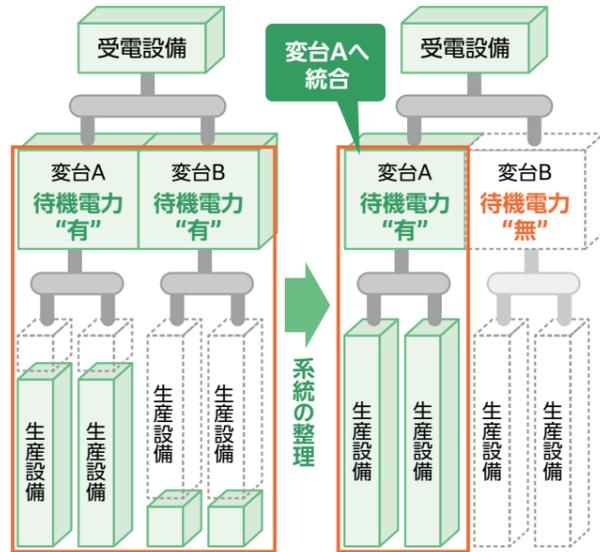


田原工場

改善活動事例

動力供給設備の統廃合による低減

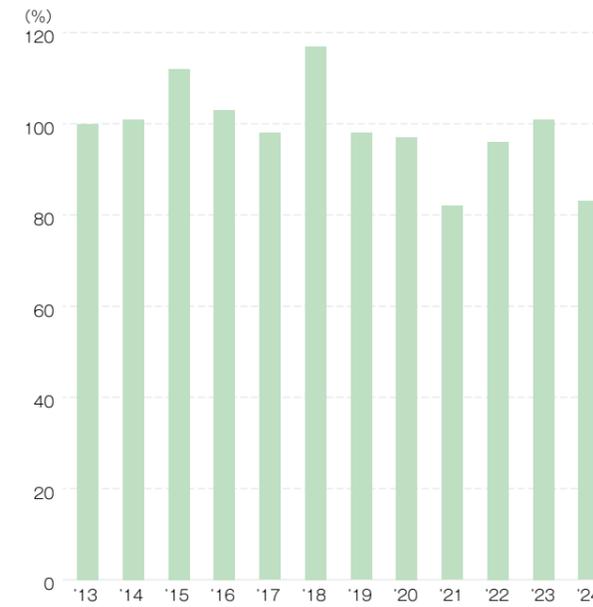
生産ラインや動力供給設備の統廃合により、省エネルギー化とCO₂排出量低減に取り組んでいます。



CO₂削減効果 本社工場91t・CO₂/年
広田工場36t・CO₂/年

水使用量低減

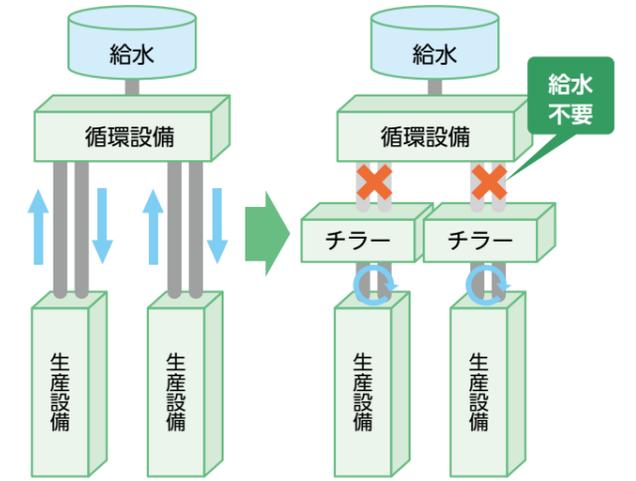
水使用量グラフ計上



改善活動事例

循環過程での気化や浮遊物除去に給水が必要でしたが、チラー化することにより給水不要となり水使用量15%削減を実現しました。

*チラー：冷却水循環装置



循環型社会の構築

取り組みの考え方

循環型社会への貢献をめざし活動しています。

- 1 循環型社会の意義と基本理念の理解
- 2 事業活動における排出物の3Rの推進
- 3 環境負荷物質（PRTR制度）の削減と資源の有効活用

基盤方針【環境】	2022環境方針	2024	2025	2026	2030
循環型社会への貢献 企業活動において資源の有効活用を図り持続可能な社会に貢献	1 循環型社会の意義と基本理念の理解 環境月間（6月）等で周知展開	環境委員会にて循環型社会貢献の意義を継続発信			
		循環型社会への取り組み（材料・構成部品等）			
		プラスチック資源循環促進法の遵守（250t未満継続）			
循環型社会への貢献 企業活動において資源の有効活用を図り持続可能な社会に貢献	2 事業活動における排出物の3Rの推進 1 産業廃棄物 2 水使用量 3 排出物と処理プロセスの把握	水使用量低減			
		水量計個別化			
		化学物質排出把握管理促進法への対応			
循環型社会への貢献 企業活動において資源の有効活用を図り持続可能な社会に貢献	3 環境負荷物質（PRTR制度）の削減と資源の有効活用 環境に影響する化学物質使用量の低減	環境負荷物質を含まない材料調査と転換			

環境意識の高い風土と人づくり

環境委員会による意識向上

社内では社長を委員長とした環境委員会を四半期ごとに開催し部長を中心に環境課題について共有および議論しています。また優秀な活動に対して表彰を行っています。



討議風景



環境活動最優秀賞表彰式

社内啓発

環境Newsを創刊し、毎月の配信にて環境豆知識や改善事例、環境ヒヤリ事例を掲載し、意識と知識の向上を図っています。

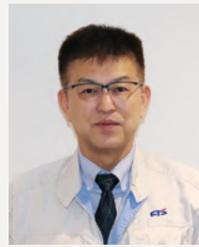


豊田市環境の保全を推進する協定協議会活動

協議会発足15周年記念冊子へFTSの取り組みが掲載されました。また、豊田市図書館へFTS環境レポートや、樹脂タンク廃材の活用を知っていただくために再生材（粉碎後）の現物を展示しました。



展示ブース



アドミニストレーション本部長
中村 正

人事・総務担当役員 メッセージ

事業拡大や収益確保だけでなく、地域・社会と密接な関係を構築して「企業の社会的責務」を果たしていくよう努力を続けます。FTSの事業活動、社内外に関わる取り組み内容をより多くの皆様に知っていただくため、分かりやすく正しい情報発信を行い、FTSに関心を持っていただけるようにしていきます。様々なステークホルダーと対話させていただき、「選ばれ続ける会社」になるため、地域・社会に求められることを一つひとつ受け止め丁寧に応えてまいります。

人権の尊重

「世界人権宣言」をはじめとする国際規範を踏まえ、行動基準となる「FTS CSRガイド」を定め、人格や人間性の尊重、強制労働や児童労働の禁止を明言しています。

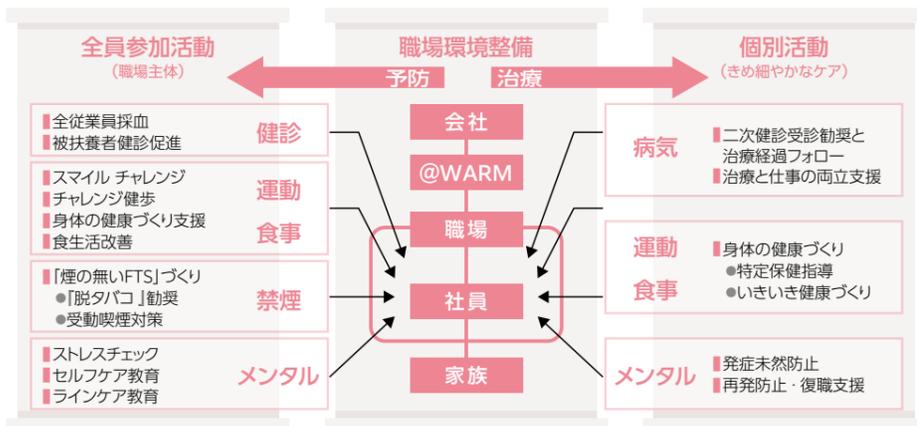
従業員、お客様、取引先など事業活動に関わる全ての人々の人権や人格・個性を尊重し差別的行為を行いません。また、社内においては労使協調のもとで常に健全で働きやすい職場づくりを心掛けます。

健康経営の推進

健康でイキイキと活躍できる会社を目指して、活動の3本柱を推進すると共に、2017年4月に経営トップによる「FTS健康宣言」を発表しました。

健康の保持増進に向け、心身両面の健康施策の充実を図り、従業員・会社が共に成長しながら全員活躍での生産性向上を目指しています。

健康経営施策と活動の3本柱



健康経営施策全体の主なKPI

	目標	'23年度実績
健康診断「低リスク者率」	44%以上	34.1%
メンタルヘルス「健康総合リスク」(指数)	100未満	97

*トヨタ関連部品健康保険組合の指標

取り組みに対する外部評価

年度	2023	2024
順位	259	229 ↑

▲「健康経営優良法人(ホワイト500)」に7年連続認定



▲「スポーツエールカンパニー2025」に3年連続認定
トヨタ関連部品健康保険組合禁煙の部「取組優良賞」を3年連続受賞

社員がイキイキと活躍できる全員参加の企業風土と職場づくり

会社変革を進めるためには、経営陣や管理職が言行一致と信賞必罰のマネジメントを行い、信頼関係を構築し、価値観を浸透させることに加えて、社員一人ひとりが組織の目的・目標達成に向けて主体的に行動することが重要です。

このことを全員が改めて認識し、行動宣言により誓い合いました。質の高いコミュニケーションを地道に継続することで「一人ひとりが主体的にチャレンジする風通しの良い企業風土と職場」を全員で作りに上げていきます。

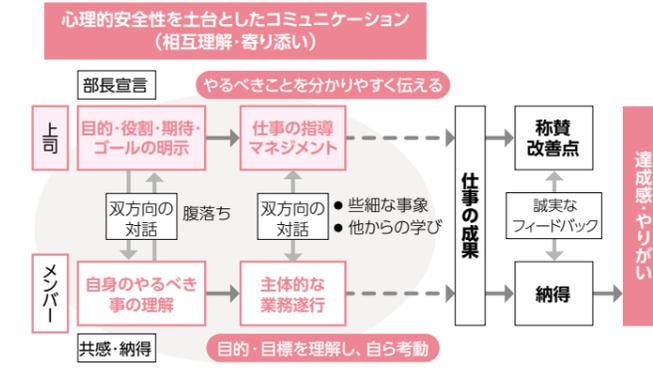
■ 主な取り組み

役員風土改革宣言

- 相手の話すことにしっかり耳を傾け、最後まで話を聞きます。
- 悪い話には「ありがとう」、良い話には「ご苦勞様」といいます。
- 会社の実情をきちんと理解いただくために、会社で起きている事に自分の考えを加えて、自分の言葉で伝えます。
- メンバーの挑戦を後押し、結果に責任を持ちます。
- 常に感謝と尊敬の気持ちを持ち、メンバーと接します。

質の高いコミュニケーションのメカニズム

(仕事のやりがい促進と風土づくり)



各種研修実施

- 前向きな思考のためのメンタルタフネス研修
- ハラスメント研修
- EQ研修
- マネジメント研修など各種研修により、気付きと行動変容を促しています。



労使コミュニケーション強化活動

会社の成長戦略に対して、労使の相互理解を深め、職場毎の本音の声を聴くために各本部単位でのコミュニケーションの場をつくりました。様々な課題について前向きに話し合い、着実に解決してまいります。



■ 職場環境改善事例

継続的な職場環境改善



現場の暑熱・防寒対策など



DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)の取り組み

■ 多様性の尊重

DE&Iを重要な経営の考え方の一つとして位置づけ、公平性を考慮すると共に、社員の個性・多様性を尊重したハラスメントのない風通しの良い職場づくりを推進します。また、社員一人ひとりに、自身の創意、熱意及び能力に応じた活躍の機会や場を提供する事で全員が成長し、活躍できる風土をめざします。

働き方改革の推進と仕事と家庭の両立支援

柔軟な働き方とワークライフバランスの実現に向け、育児短時間勤務者も含めてフレックスタイム制度や在宅勤務制度を整えています。また、男性の育児休業取得の推進、不妊治療、家族のワクチン接種休暇制度の導入など、社員が働きやすい環境整備を進めています。これらの取り組み成果が評価され、子育てサポート企業として、「くるみん認定」を受ける事ができました。

今後も、両立支援制度の充実および啓蒙活動・社内外研修を通じて、制度を利用しやすい職場風土づくりに取り組んでまいります。



▲くるみん認定 '24/11/15

子どもの看護休暇制度

'25/4には子どもの看護休暇において、法定基準を超える制度を整備

項目	法令	FTS
対象となる子	小学校3年生 終了まで	小学校6年生 終了まで

人材育成

当社では、「社員の幸福」をポリシーに掲げて、一人ひとりがFTSの価値観を共有し、創意とチャレンジ精神のもとでオーナーシップを持ち、主体的な行動により、成果を出す人材の育成をめざして取り組んでいます。

■ 主な取り組み

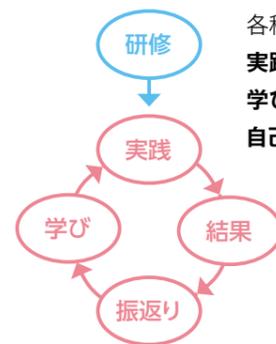
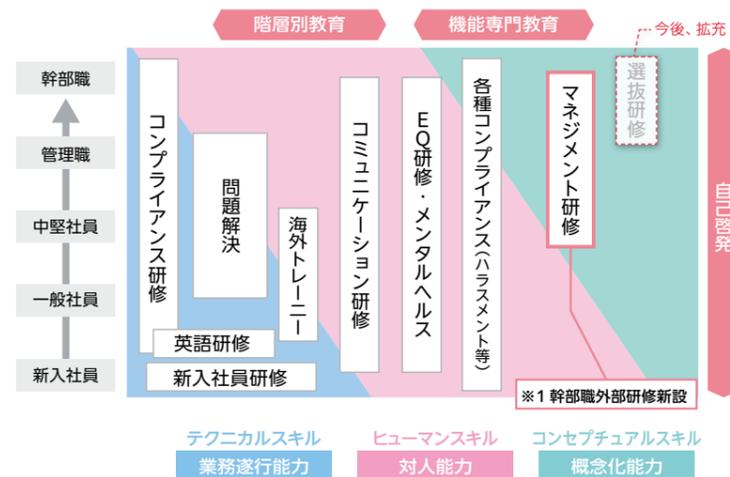
- 階層別教育、機能専門教育の拡充
- e-ラーニング環境整備
- 各種コンプライアンス教育整備
- 外部コンテンツの利用
- 自己啓発支援
- コミュニケーション研修、EQ研修
- 社外研修強化の実施など
 - 基幹職研修2年目継続
 - 幹部職研修新設*1

また、キャリアデザイン面談や若手の英語力強化、海外トレーニーにも力を入れています。

幹部職外部研修



経営者目線での問題認識・課題形成および全体最適戦略立案をするための考え方や方法論を学びました。今後は、選抜研修の拡充を図るなど更なる人材育成に努めていきます。



各種研修で得た知識・スキルを **実践** → **結果** → **振返り** からの **学び**を通じた成長に繋げて **自己効力感**を高めて行く

ビジネスパートナー

■ 基本的な考え方

仕入先の皆様と連携し、お客様第一の活動を推進しています。また、「FTS経営理念」の実現をめざして、我々が果たすべき社会的責任について、「グリーン調達ガイドライン」及び「仕入先CSRガイドライン」としてまとめました。さらに、「パートナーシップ構築宣言」を行い、仕入先の皆様とのコミュニケーションを大切に、共存共栄を進めると共に、責任ある企業活動を推進し続けます。



グリーン調達ガイドライン



仕入先CSRガイドライン



パートナーシップ構築宣言



■ 仕入先自主研鑽会活動

当社は仕入先の経営基盤強化による持続的成長と生産性・品質向上による現場ロス低減などを目的として2021年から「寄り添い活動」を展開しています。その活動成果を「協力会自主研鑽会活動」の場で共有・意見交換することにより、仕入先各社の主体的な体質強化・競争力確保につなげる改善のサイクルを回しています。2024年度は仕入先9社が参画し、報告会には延べ114名が参加し、相互研鑽を行いました。



社会貢献



献血実施

昨年から引き続き、愛知県赤十字血液センターの協力のもと、本社にて献血活動を実施しました。本社・豊田工場に勤務する多くの事技系社員が積極的に参加しました。継続的な活動として定着を図っていきます。



植栽整備器具の贈呈

地域社会に感謝し貢献するというFTSポリシーに基づき、豊田市で障害者支援施設を営む、『社会福祉法人とよた光の里』へ植栽整備器具を寄贈しました。職員、入所者の方々から温かい感謝の言葉を頂きました。



地域イベント ラリージャパンへの協賛

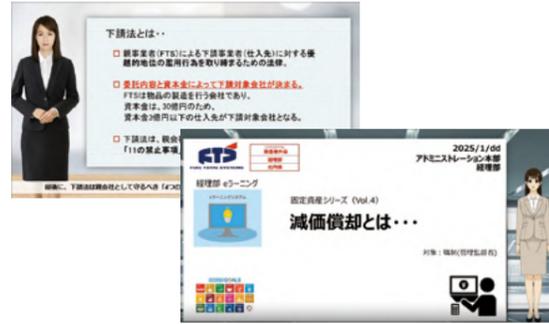
豊田市が主催する「フォーラムエイト・ラリージャパン2024」へ協賛すると共に、豊田市の『わがまちアスリート』認定者であり、当社社員でもある佐々木選手への支援・応援活動を実施しました。

2 コンプライアンス教育(e-ラーニング、啓蒙活動)の実施

様々な分野で法令主管部署による主体的なe-ラーニングや啓蒙・啓発活動を継続的に実施することにより、社員のコンプライアンス知識と意識を高め、行動変容を促す風土づくりを推進しています。

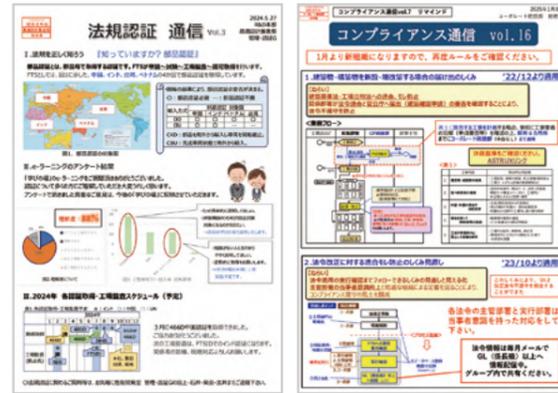
e-ラーニング教育

- 情報セキュリティ教育 ● 法規認証教育
- 固定資産管理教育 ● 品質教育
- 役員向け法令、ガバナンス教育
- 下請法教育 等



定期的な啓蒙活動

- 品質新聞 ● 防火新聞 ● コンプライアンス通信
- 情報セキュリティ通信 ● 法規認証通信 等



情報セキュリティ強化

近年のサイバー攻撃による情報漏洩やリスクが増大する中、情報セキュリティ確保は全てのステークホルダーの皆様との信頼関係を支える重要な経営課題と認識しています。当社では、オールトヨタセキュリティガイドライン*に基づき、情報セキュリティをグローバルで強化する活動をスタートさせ、ITリテラシーの高い人材を育成するための教育、訓練及び啓蒙活動を継続的に実施しています。

*オールトヨタセキュリティガイドライン(ATSG)・・・トヨタ自動車株式会社および子会社・関連会社を対象に、情報漏洩防止やサイバー攻撃等に対応するための指針

■ グローバルでの強化活動

グローバル各拠点にて出向者、ナショナルスタッフを交えて情報セキュリティ強化に向けて、各拠点の状況や課題とその対策について共有し相互連携・相互研鑽を図っています。今後も継続して進めていきます。



FTSID (インドネシア)



FTSTH (タイ)

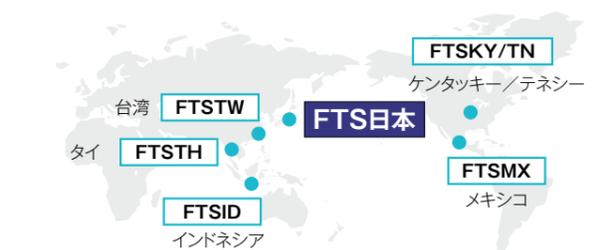


FTSKY (アメリカ)

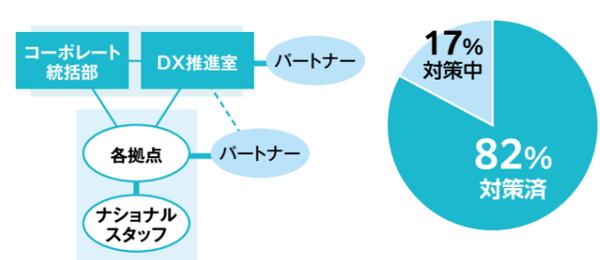


FTSMX (メキシコ)

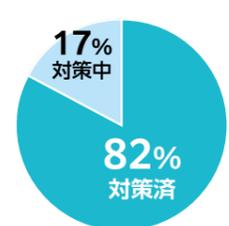
FTSGグローバル拠点



グローバル連携体制



ATSGグローバル達成率



リスクマネジメント

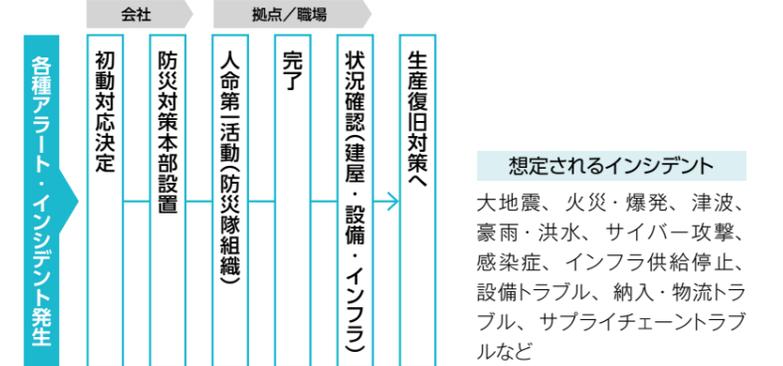
■ 事業継続計画(BCP)の取り組み

災害など各種インシデント発生時に備えて、「人命第一」を最優先に、「地域の早期復旧支援」、「自社の業務・生産復旧」を3本柱とした事業継続計画(BCP)を策定しています。定期訓練からの問題解決や他社からの学びを通じて、平時から危機に強く、実効性の高い組織体制整備と人材育成を継続的に進めて参ります。

BCP3本社

- 1 人命第一**
防災組織を中心に安全・安心でより確実な避難が出来る体制と有事に動ける訓練の実施
- 2 地域の早期復旧支援**
地域・自治体と連携し、早期復旧と支援
- 3 自社の業務・生産復旧**
災害に応じて各機能が主体的に責任範囲の対応を行い早期生産復旧

インシデント対応の流れ



■ 各種訓練

従業員の安全確保と被害を最小限に抑えるために、様々な訓練を定期的に行っています。また、他社との情報交換を通じて相互研鑽を行い、得られた学びを自社のBCP活動強化に活かしています。今後は対策本部と防災隊の対応力強化を図るためレジリエンス訓練を計画して行きます。

避難訓練



有事に一人ひとりが慌てず速やかに行動することを目指して訓練を実施しています。

応急救護訓練



年2回の訓練を通じて多くの社員が応急救護を実践できるように努めています。

ドローン訓練



災害時にドローンを有効活用するための訓練をスタート。今後も資格者を増やし、定期的な訓練による操縦レベル向上を図って行きます。

他社情報交換会(相互研鑽)

BCPだけでなく防火や健康経営など幅広い範囲で定期的な情報交換を実施しています。本音の困り事や参考となる取り組みを互いに紹介し合うことで、改善につながる多くの気付きや学びが得られています。



■ 啓蒙・啓発

社内掲示板、サイネージなどで、地震・風水害からの身の守り方、行動など社員へ定期的に情報提供を行い、一人ひとりの知識、意識向上を図っています。



FTSの概要

FTS非財務データ 2024年度実績 ※2025年3月末時点

環境

CO₂排出量



29,707 t

(昨年比: ▲758)

※内、再エネ相殺分: 3,415t

産業廃棄物総排出量



787 t

(昨年比: ▲83)

水使用量



230 km³

(昨年比: ▲46)

ガバナンス

取締役



7名

監査役(社外含む)



2名

社内外スピークアップ
相談件数



18件

(昨年比: ▲28)

社会

従業員数
(派遣社員を除く)



1,427人

社員の平均年齢



42.7歳

社員の平均勤続年数



18.1年

障がい者雇用率



2.7%

有給休暇取得率



90.8%

エンゲージメント
サーベイスコア

※従業員の会社や仕事に対する愛着
心や貢献意欲を数値化した指標



偏差値

45.9

アブセンティーズム

※こころと身体の要因別休職日数を、
年間一人当たり平均日数で測定

こころ **3.9日**

身体 **0.6日**



女性従業員比



9.5%

育児休業取得率



全体 **57.1%**

女性 **100%**

男性 **50.0%**



平均残業時間



21.1 H/月

通信教育講座数



119講座

国家資格取得数



69人

プレゼンティーズム

※体調に問題なく仕事に集中できる状態を100%
とした場合に対する、自己評価の平均値

76.1%

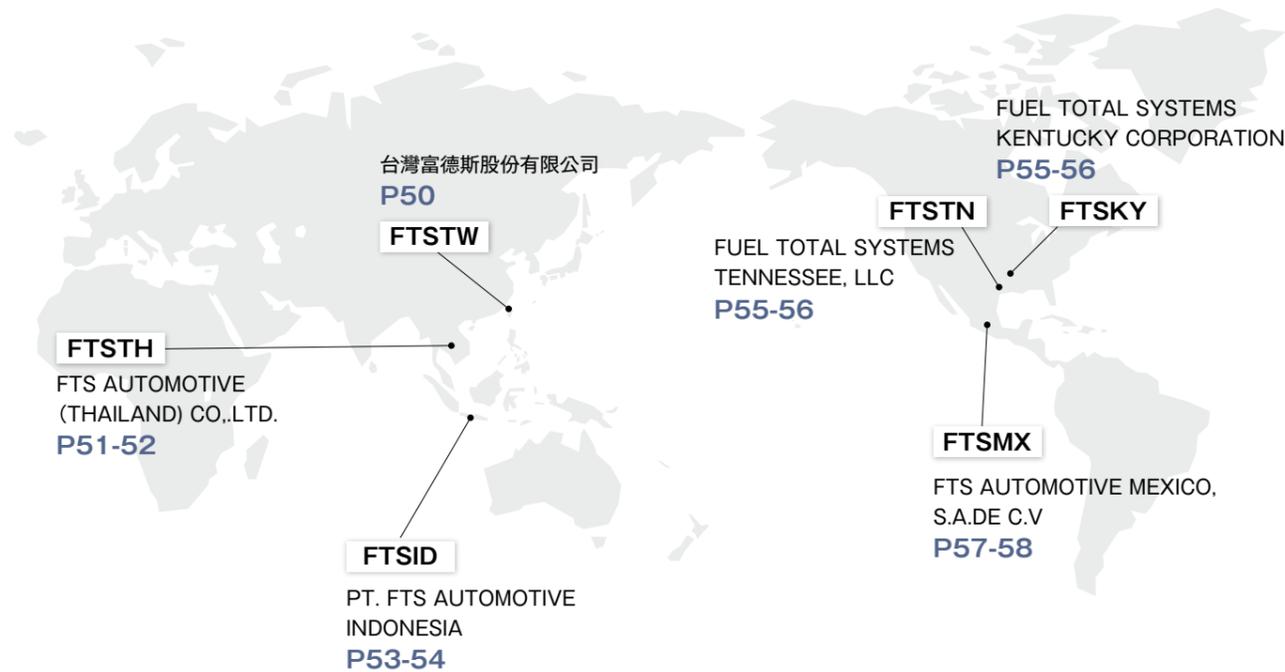


FTSの概要

会社概要・国内拠点紹介

社名	株式会社FTS
本社所在地	〒471-8510 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目26番地
電話番号	0565-29-2211
代表者	取締役社長 磯部 利行
設立	1942年7月7日
資本金	30億円
従業員数	単独：1427人 / グループ会社全体：3047人(派遣社員を除く) *2025年3月末時点
事業内容	燃料タンク及び燃料タンク周辺部品・エンジン部品・ハイブリッド部品の開発・設計・製造ならびに販売、鋼板の加工・販売

海外グループ会社



国内拠点

本社・本社工場



生産品目
 フューエルタンク(樹脂・鉄)、フィルターパイプ(SUS)、フューエルリッド(鉄)、バッテリーケース

1961年操業
 〒471-8510 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目26番地

実験センター



業務内容
 信頼性評価・強度安全評価・耐火試験

2002年設立
 〒471-0836 愛知県豊田市鴻ノ巣町2丁目5番地1

豊田工場



生産品目
 フューエルタンク(樹脂)

2005年操業
 〒471-0834 愛知県豊田市寿町1丁目33番地1

株式会社 アスノエンジニアリング

スチールセンター



生産品目
 鋼板加工品

1971年操業
 〒470-0224 愛知県みよし市三好町東山5番地

田原工場



生産品目
 フューエルタンク(樹脂・鉄)
 フィルターパイプ(鉄)

1985年操業
 〒441-3401 愛知県田原市緑が浜四号1番9

広田工場



生産品目
 フィルターパイプ(鉄)、樹脂リッドモジュール

1981年操業
 〒473-0932 愛知県豊田市堤町寺池11番地

岩手工場

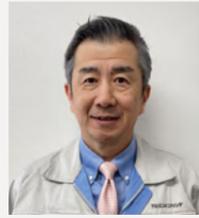


生産品目
 フューエルタンク(樹脂・鉄)、
 フィルターパイプ(樹脂)

2006年操業
 〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1番地

株式会社FTS九州 福岡工場

株式会社FTS九州 本社 大分工場



株式会社アスノエンジニアリング 社長
太田 一郎

社長 メッセージ

私たちはFTSグループの一員として生産設備やパレットなどの設計・製作、建物や施設の営繕、電気工事・保守点検、売店業務・物品販売などのサービスを提供するエンジニアリング集団です。時代の流れを迅速に捉え、常に新しい技術に挑戦し続け“お客様に選ばれ、喜ばれる提案型企業”をめざしています。

会社概要

社名	株式会社アスノエンジニアリング
本社所在地	〒470-0224 愛知県みよし市三好町夕田54番地1
従業員数	38人(派遣社員を除く)
事業内容	設備設計・制作、建屋営繕・修繕、 電気工事、売店、清掃など
HP	https://www.asno-e.jp/about.html



《沿革》
1989年 設立

将来Vision

1 企業理念・ポリシー

グループ会社としてFTSを支える三本柱

- I「安定生産のための職場環境づくり」を支える・・・FTSの工場を熟知するアスノの強みを活かしたインフラ整備・営繕工事
- II「新規プロジェクトの生産準備」を支える・・・安全性確保と納期遵守での設備製作
- III「健康経営、職場衛生」を支える・・・売店にて健康飲料の販売、構内外清掃

2 主な事業



会社概要

社名	台湾富德斯股份有限公司 (FTSTW)
本社所在地	NO. 2, GUOJIAN 3RD., GUANYIN DIST., TAOYUAN CITY 32844, TAIWAN(R.O.C.)
従業員数	32人(派遣社員を除く)
事業内容	フューエルタンク(樹脂)
主要顧客	国瑞汽車股份有限公司
HP	https://www.fts-tw.com/



《沿革》
2017年 設立
2019年 操業

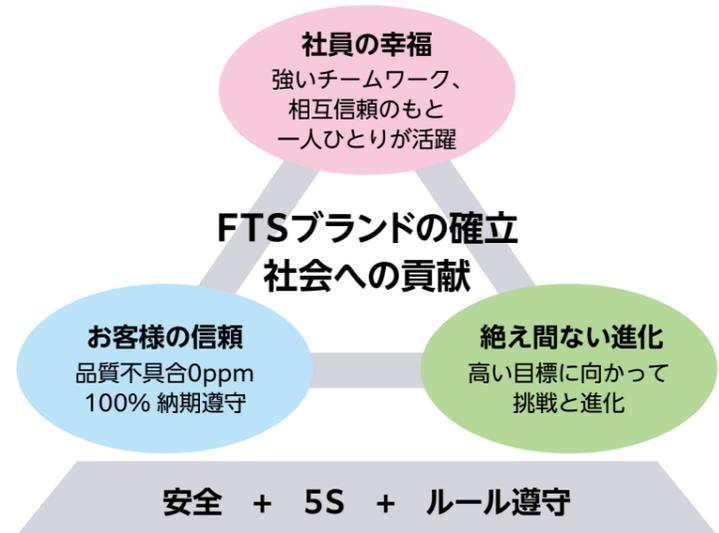
将来Vision

1 企業理念・ポリシー、2030Vision

- ①お客様(国瑞汽車)のオンサイトパートナー(準内製)の立場を意識した安心信頼いただくモノづくり工場
- ②シンプル・スリム・コンパクトな組織体制とモノづくり
- ③日本と台湾のロケーションメリットを活かした、業務連携(グローバルバックアップ生産、試作業務請負)

台湾富德斯 VISION

台湾唯一の樹脂製燃料タンクサプライヤーとして
「シンプル・スリム・コンパクト」な生産を軸に品質No.1を目指す





エフティエスオートモティブタイランド 社長 福田 博夫

拠点長 メッセージ

当社は、「Safety First, Quality No.1」を合言葉に従業員One Teamでお客様に“安全・安心”をお届けしています。また、ステークホルダーの皆様、地域・関係会社の皆様に支えられ、2026年4月には、創立30周年を迎えますが、より一層の進化のため社員の幸福、社会への貢献をめざし、日々改善を推進し続けていきます。

会社概要

- 社名** FTS AUTOMOTIVE (THAILAND) CO.,LTD. (FTSTH)
- 本社所在地** 38 Moo 4, T. Pluakdaeng,A. Pluakdaeng, Rayong 21140 THAILAND
- 従業員数** 418人(派遣社員を除く)
- 事業内容** フューエルタンク(樹脂)、フィラーパイプ、タンクバンド、リッド、ボデー部品
- 主要顧客** TMA(トヨタ自動車)、TTTC(豊田通商) ISUZU、MMTh(三菱自動車)、NMT(日産自動車)



第1工場



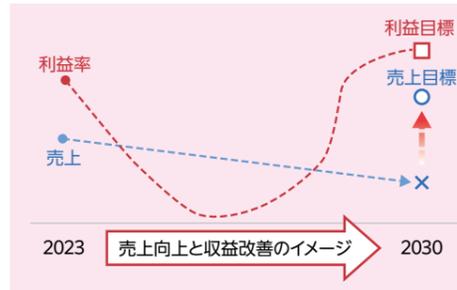
《沿革》
 1996年 設立
 1997年 操業
 2015年 第2工場建設
 2018年 樹脂タンク事業開始
 2022年 FTSTHへ社名変更

将来Vision

1 企業理念・ポリシー

拠点経営の基本方針

- 事業** 【タイのモビリティ社会への発展に「モノづくり」を通して貢献】をコンセプトとして、創立30周年の節目を機に新たなフェーズに挑戦
- モノづくり** タイ市場低迷による生産台数減、中国OEMのシェア拡大を踏まえ、限量経営を軸としたモノづくり体制の強化と収益確保を推進
- 経営MGM** 「社員の幸福」「社会貢献」を実現するためTPSとからくり改善を軸に人材育成の継続と改善し続ける企業文化を構築



2 2030 Vision

2030年目標の達成方策

原価改善活動と拡販により、2030年目標の達成をOne Teamで目指します。



E：環境

地球環境保全のため、カーボンニュートラルに向けた活動を積極的に推進し続けています。

ソーラー発電

2020年に各工場ルーフにソーラー発電機を設置し、年間約30%の電力を賅っています。



第1工場



第2工場

植樹活動

年2回マングローブの植樹を実施しています。



S：社会

地域社会への貢献と従業員の働きやすさを実現するため、様々な取り組みを実施しています。

地域貢献活動

小学校訪問・寄付

小学校への教育資材の寄付や交流会の開催など、将来を担う子どもたちへのサポートを近隣会社と合同で実施しています。



職場環境改善

からくり改善による作業負荷低減

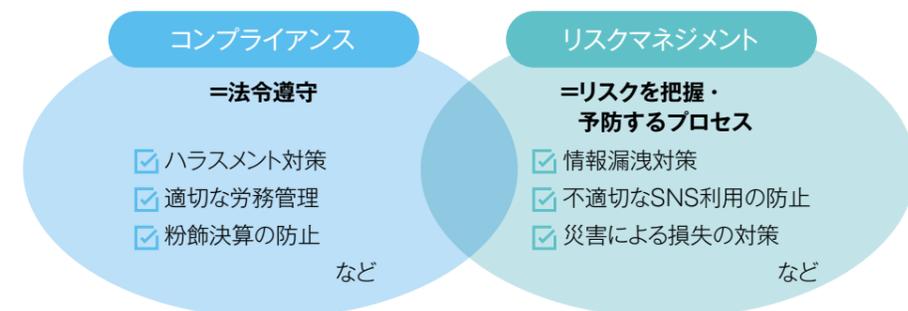
従業員満足度(ES)向上に向け、日常的に従業員から意見を聞き、働きやすい職場づくりを継続的に推進しています。



からくり改善を取り入れた工場

G：ガバナンス

法令遵守をベースに親会社の基準に基づき、各種案件の評価・是正と共に継続的な管理・統制を推進しています。また、ルールの定期的な見直しを実施しています。





エフティエスオートモーティブインドネシア 社長 幡修三

拠点長 メッセージ

当社は「社員と家族の幸福」「会社の持続的成長」「社会への貢献」を社是としてインドネシア自動車生産の約7割の燃料タンク・フィルターパイプ等を供給しており、その責任と誇りを持ち日々安定生産に努めています。また、SDGsを積極的に推進すると共に恵まれない家庭への奨学金支給等、継続的に地域社会貢献を実施しています。

会社概要

- 社名** PT. FTS AUTOMOTIVE INDONESIA (FTSID)
- 本社所在地** EJIP Industrial Park, Plot 5F-2B, Cikarang Selatan, Bekasi, Jawa Barat 17530, INDONESIA
- 従業員数** 643人(派遣社員を除く)
- 事業内容** フューエルタンク(樹脂、鉄)、フィルターパイプ、タンクバンド、オイルパン、一般プレス部品
- 主要顧客** TMMIN(トヨタ自動車)、ADM(ダイハツ工業)、HMMI、SIM、MMKI、NX SHOJI、KUBOTA



《沿革》

- 1996年 設立
- 1997年 操業
- 2007年 第2工場稼働
- 2022年 FTSIDへ社名変更



将来Vision

1 企業理念・ポリシー

考え方
先行き不透明な大変革期において生き残り、従業員が安心して働くことができ、お客様・地場自動車産業に貢献し続けるために・・・

2 2030 Vision

目標
コアビジネスの固定費圧縮と稼働改善+新ビジネス開拓
→ 2030年損益分岐目標を達成

市場環境

電動化進展及び中韓メーカーの躍進による燃料系ビジネス減衰傾向

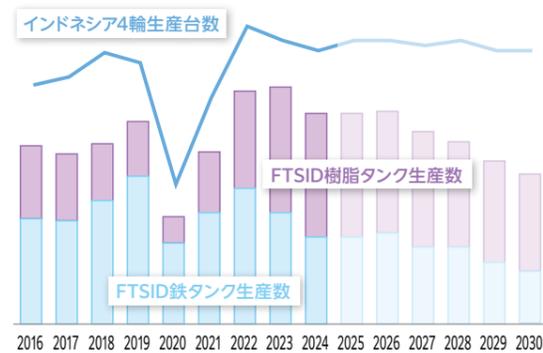
強みを活かした持続的成長

多くのOEMとの取引から得たノウハウと技術力を活かした持続的成長

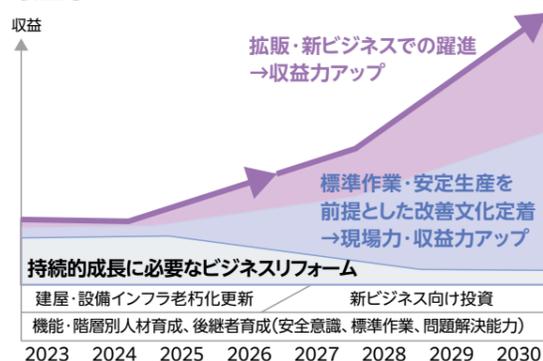
主な取り組み

- 人材育成、工場インフラ
老朽化対策を軸にしたビジネスリフォーム
- 三本柱活動の継続と限量経営の強力推進
*三本柱:トヨタ自動車を実施している「標準作業の徹底と改定」「加工点管理」「自主保全」という製造職場運営の仕組みのこと
- 燃料系部品の積極的拡販と
将来の電動化新ビジネスへの備え

インドネシア4輪生産台数、FTSIDタンク生産数推予測

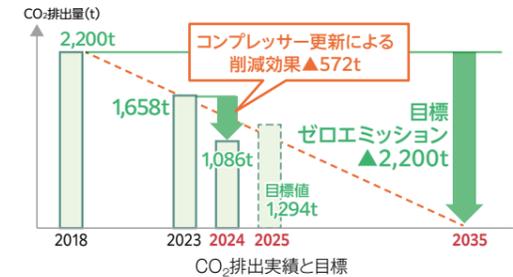


収益力アップのロードマップ



E: 環境

インドネシア政府による2050年カーボンニュートラル達成という目標に対して、トヨタグループはそれを先取りした2035年カーボンニュートラル達成を目標に活動を推進しています。FTSIDはそれを踏まえて自らの目標と計画を立案、2021年から取り組みを開始しました。2024年はインバータ付きコンプレッサーやLED照明の導入により計画を上回る成果を達成、2025年の目標についても達成見込みで推進しています。



更新したコンプレッサー



ソーラーパネルとLED照明

S: 社会

社会貢献活動



感謝状

車いすを福祉団体へ寄付

トヨタグループを通じて毎年、車いすを福祉団体へ寄付しており、本年は感謝状を頂きました。移動が困難な方々の支援を通じて誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献してまいります。



スポごみ活動

イオン(株)の活動に参加し、地域社会の環境美化に貢献する良い機会となりました。
*スポごみ活動とは:従来型ごみ拾いに「スポーツ」のエッセンスを加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の全く新しいスポーツ



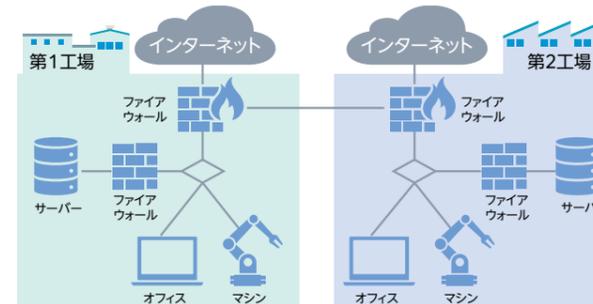
学業優秀子女への表彰

従業員の子のうちの学業優秀者を対象にファミリーデーで表彰し、金一封を授与しました。学習意欲を高めて企業の一体感や働きやすい環境づくりにつなげていきます。

G: ガバナンス

ITセキュリティ強化

2023年サイバーインシデント発生との反省と教訓からオールトヨタセキュリティガイドラインの規範に則りサイバーインフラの再構築と人材育成を進め、強固なセキュリティ体制と仕組みづくりを推進しています。



人材育成・組織風土改革

2030年限量経営目標の達成に向け選抜した次世代リーダー数名に継続的なマネジメント研修を実施しています。また、全従業員のスキルと安全意識の向上、組織の競争力強化を図るためトレーニングルームを拡充しました。



マネジメント研修



トレーニングルーム

グループ会社紹介



フューエルトータルシステムズケンタッキー/テネシー 社長
五利江 直樹

拠点長 メッセージ

当社は「ゼロPPMによるお客様の信頼獲得とゼロDEFECTSによる収益確保」をモットーとして日々の樹脂製燃料タンクをメインに生産活動を行っております。
また地域に根差した企業活動として地元の小学校や地元民対象の行事に積極的に支援を行い、すべてのステークホルダーにご満足いただける会社を引き続き目指していきます。

会社概要

社名	Fuel Total Systems Kentucky Corporation (FTSKY) Fuel Total Systems Tennessee, LLC (FTSTN)
本社所在地	KY: 535 Corporate Drive, Lebanon, KY 40033 U.S.A TN: 102 Sam Watkins Boulevard Mount Pleasant, TN 38474 U.S.A
従業員数	329人(派遣社員を除く)
事業内容	フューエルタンク(樹脂)、ファイラーパイプ
主要顧客	TMMK, TMMI, TMMMS, MTM(トヨタ自動車)
HP	https://fueltotalsystems.com/



《沿革》
2004年 カリフォルニアにて設立・操業
2011年 ケンタッキー移転
2018年 テネシー設立
2020年 テネシー操業



将来Vision

1 企業理念・ポリシー

ゼロPPMによるお客様の信頼獲得とゼロDEFECTSによる収益確保を実施していきます。

*ゼロDEFECTS: はじめから正しく仕事をする

2 2030 Vision

目標

コアビジネスの限量経営、高付加価値化と新規ビジネス開拓

→ 2030年・2024年同等の売り上げ、利益を確保

市場環境

トランプ大統領による電動車補助金廃止、輸入自動車関税等により米国内自動車産業には追い風

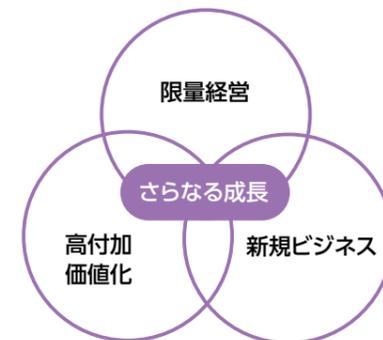
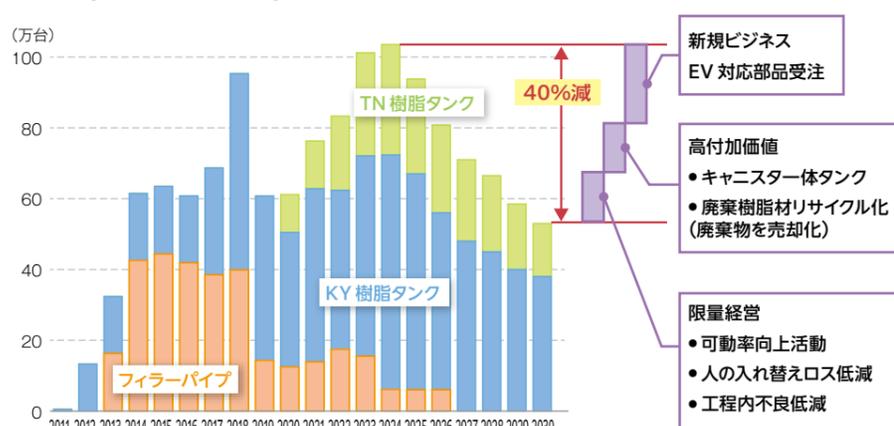
強みを活かした持続的成長

2拠点(KY・TN)で米国北部から南部まで幅広いお客様をカバー

主な取り組み

- 新規ビジネス
EV対応部品受注活動促進
- 高付加価値化
キャニスター体タンクの受注
- 限量経営
・ 可動率向上活動
・ トレーニングラインを活用した人の入れ替えロス低減活動

FTSKY/TN製品生産台数/予測(2011-2030) 2024年以降の出席情報: TMNA



Fuel Total Systems Kentucky Corporation (FTSKY) / Fuel Total Systems Tennessee, LLC (FTSTN)

E: 環境

トヨタ環境取り組みプランに準じ、2030年までに廃棄物5%削減を目標としています。

その目標の達成に向けて、工程内不良低減活動や廃棄タンクのリサイクル化、可動率向上による無駄な電力使用の抑制を行っています。

S: 社会

社会貢献活動



地元イベントへの寄付

地元で有名なイベントHam daysの協賛ほか、小学校、公共団体への寄付を行っています。

福利厚生

全従業員を対象とした低コストな医療保険を提供しています。医療費が高額な米国では大変好評な福利厚生制度となっています。

人材育成

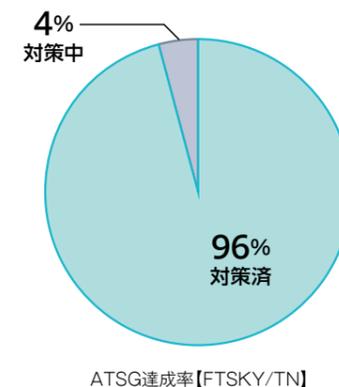


成果を出した従業員への表彰制度(MENDOMI活動)をはじめ、オフライントレーニング場を活用したブレトレーニングの実施や新人が早く環境に溶け込めるよう世話役の設定などを実施しています。

G: ガバナンス

情報セキュリティ強化

TOYOTA GOSEI AMERICAのセキュリティシステムを使用し、ATSGに対応すべく協業でシステム強化に取り組んでいます。



ATSG達成率【FTSKY/TN】

CSR

無料で従業員支援プログラムを提供しています。また、24時間いつでも相談できる法律、労務問題の窓口を設置しています。



社員への啓発資料

グループ会社紹介



エフティエスオートモーティブメキシコ 社長
福田 栄

拠点長 メッセージ

お客様に安心・信頼される品質と地域に根差した自立的な拠点経営をめざし、環境・社会貢献活動を積極的に取り組んでおり、小児がんの子どもをサポートする施設へ生活物資提供や施設が運営するリサイクル部品加工業への廃棄材料等の提供、並びに、障がいを持つ将来の夢見る人を雇用する企業へのサポートに取り組んでおります。

会社概要

- 社名** FTS AUTOMOTIVE MEXICO, S.A.DE C.V (FTSMX)
- 本社所在地** Carretera 45D, KM12.5, Interior 7, Pargue Automotriz Toyota Apaseo, Apaseo el Grande, Guanajuato.C.P.38180
- 従業員数** 65人(派遣社員を除く)
- 事業内容** フューエルタンク(樹脂)
- 主要顧客** TMMGT、TMNA(トヨタ自動車)



《沿革》
2016年 設立
2019年 操業
2020年 量産開始



将来Vision

1 企業理念・ポリシー

燃料タンクの最も信頼できるサプライヤーとして、技術の活用と継続的な改善を通じて、スタッフの関与と献身的なサポートにより、永続的な品質軸を 0 PPM に維持します。

2 2030 Vision

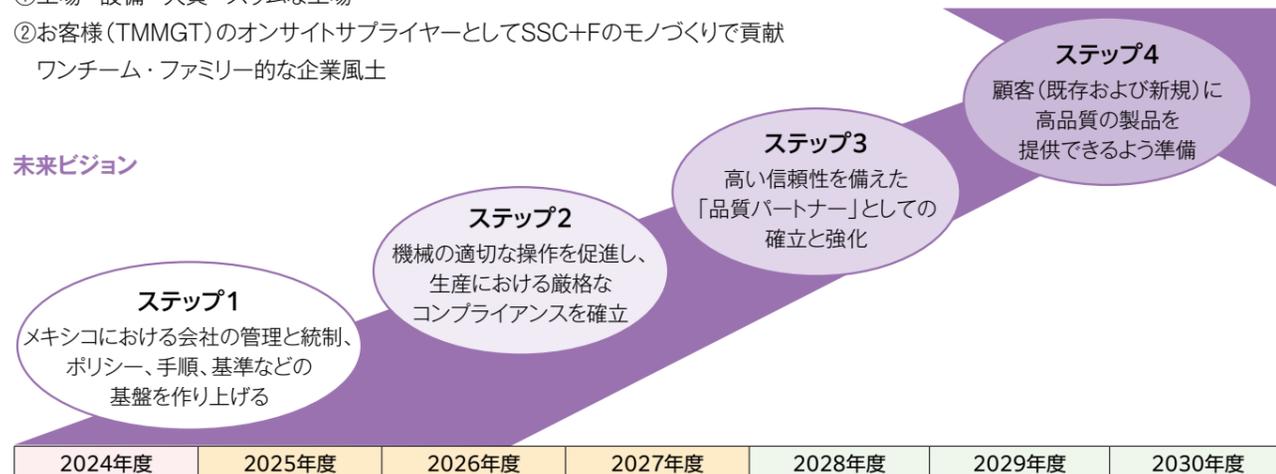
基本方針

“Safety First ,Quality No1”でお客様に貢献
お客様に選ばれるトータル燃料系システム会社になる

工場コンセプト

- ①工場・設備・人員・スリムな工場
- ②お客様(TMMGT)のオンサイトサプライヤーとしてSSC+Fのモノづくりで貢献
ワンチーム・ファミリー的な企業風土

未来ビジョン



FTS AUTOMOTIVE MEXICO, S.A.DE C.V (FTSMX)

E：環境

植樹を通じて環境保全に貢献しています。また、FTSの全スタッフが参加し、植樹されたすべての木の世話を実施するなど、協力することで大きな目標達成を目指しています。



植樹計画



植樹活動の様子



S：社会

社会貢献活動

「命を与えるリサイクル」でメキシコの子どもたちへの貢献活動を実施しています。プラスチックキャップとプラスチック廃棄物を収集して資源を生成し、がんを患う子どもたちを支援しています。



サポート方法



AMANC Asociación Mexicana de Ayuda a Niños con Cáncer

G：ガバナンス

人材育成

組織能力開発のためのワークショップを開催し、FTS リーダーからチームメンバーへ教育を実施し、「チームワーク」に焦点を当てたチームビルディング計画を推進しています。

